平成23年度　認知症介護研究報告書〈若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業〉

平成２３年度
老人保健健康増進等事業
による研究報告書

平成２３年度

認知症介護研究報告書

〈若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業〉

社会福祉法人　仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

目　次

平成 23 年度研究成果

1）若年性認知症ネットワーク …… 1
― 本人・家族の交流会とサポーター・スタッフの勉強会 ―
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター研究部）
鈴木　亮子（認知症介護研究・研修大府センター研究部）
尾之内直美（認知症の人と家族の会・愛知県支部）

2）若年性認知症デイケアプログラムの紹介のためのパンフレット作成…… 29
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター研究部）
鈴木　亮子（認知症介護研究・研修大府センター研究部）

3）地域包括支援センターの若年性認知症に対する就労支援…… 61
小長谷陽子（認知症介護研究・研修大府センター研究部）

若年性認知症ネットワーク
―本人・家族の交流会とサポーター・スタッフの勉強会―

主任研究者　小長谷 陽子　（認知症介護研究・研修大府センター研究部）
分担研究者　鈴木　　亮子　（認知症介護研究・研修大府センター研究部）
研究協力者　尾之内 直美　（認知症の人と家族の会・愛知県支部）

A.　はじめに

若年性認知症は、働きざかりや家庭での役割が大きい年代の人におこり、生活や家族への影響が大きい。このように高齢者の認知症とは異なる様々な問題がありながら、高齢者の認知症に比べ支援が十分とは言えない。介護保険制度からも社会福祉制度からも抜けおちる場合もあり、介護保険制度を利用するまでは、社会との関わりが限られることも少なくない。

そのため、若年性認知症の人と家族の居場所づくりの一環として、平成20年度に「若年性認知症の本人および家族の交流会」を実施した。また、交流会を支えるサポーターを育成するために、養成講座も実施した。この交流会は当初の予定では回数を限定したものであったが、本人及び家族が継続を希望し、平成21年度からは、“元気かい”という名称で、活動が継続されている。“元気かい”が発足したことにより、若年性認知症の本人と家族のネットワークが形成され、サポーターという形で多職種の介護関係者のネットワーク形成にも波及している。本報告では、若年性認知症ネットワークとしての交流会と、それに関連した勉強会について報告する。

B.　活動内容

1.　“元気かい”の活動内容と参加者

基本的には毎月第2土曜日、13時30分から16時まで、東海市しあわせ村で活動を実施している。活動内容としては、本人はサポーターと最近の様子や季節の話題など日常会話を楽しんだり、活動場所の公園内を散歩する。その間、家族は本人をサポーターに任せ、日頃の悩みなどを話す時間を持つ。また、全ての参加者が一緒にリクレーションや創作活動を行う時間もある。

昨年度末に、元気かいの仲間が皆で一緒にできることはないかということを検討し、平成23年度4月から音楽療法士にボランティアで参加してもらい、合唱

を始めた。いずれは家族会が行う講演会などで合唱団として、合唱を披露することを目標としている。

季節によっては通常とは異なる形式で行った月もあった。4月は例年の行事としてお花見にでかけ、1月は新年会を兼ねて、バスによる日帰り旅行を実施した。

表1に各月の“元気かい”の活動内容を、表2　に参加者数を示す。

表1.　“元気かい”の活動内容

月日	場所	内容	その他
平成 23 年 4 月 9 日	しあわせ村 大池公園	自己紹介･雑談(好きな唄は) 合唱：季節の歌、演歌、「手のひらを太陽に」　他 花見(天候回復のため急きょ花見へ)	この月より、音楽療法士の金山由美子先生が参加。電子オルガンの演奏で合唱
5 月 14 日	しあわせ村	自己紹介・交流会・散策 合唱：金山先生 体操・ストレッチ	
6 月 11 日	しあわせ村	自己紹介・交流会・散策 合唱：金山先生 体操・ストレッチ	
7 月 9 日	しあわせ村	自己紹介（氏名・夏の思い出話) スイカ割り･スイカ種飛ばし大会 合唱：季節の歌 体操・ストレッチ	金山先生の浴衣姿を見て、夏まつりの思い出を歌う
8 月		リフレッシュ旅行（28・29 日）のためお休み	
9 月 10 日	しあわせ村	自己紹介・交流会・散策 合唱：金山先生 フォークダンス 体操・ストレッチ	合唱後、先生の演奏に合わせて輪になりフォークダンス（オクラホマミキサー・マイムマイム)

10 月 8 日	しあわせ村	自己紹介（氏名・住所・秋に食べたい美味しいものは？） 交流会・散策 合唱 : 金山先生（ドラゴンズ優勝の歌他） 体操・ストレッチ	秋に食べたい美味しい物：まったけ・サンマ・さつまいも・栗・栗きんとん・きのこ・・・・。 でもやっぱりさつま芋が一番美味しいね
11 月 11 日	しあわせ村	大交流会	
12 月 10 日	しあわせ村	自己紹介・交流会・散策 合唱：金山先生 体操・ストレッチ	
平成 24 年 1 月 8 日	“酢の町”見学 “蔵のまち”散策 四季房“吉仙”	新年会:バス日帰り交流会と昼食会	昼食会会場で合唱（お正月・上を向いて歩こう・手のひらを太陽に）

表2. “元気かい”の参加者人数

実施月		参加者(人数)			合計(人数)
		本人	家族	スタッフ	
平成 23 年	4 月（花見）	6	7	12	25
	5 月	8	9	7	24
	6 月	9	11	5	25
	7 月	10	13	10	33
	8 月	夏休み			
	9 月	6	11	10	27
	10 月	5	7	8	20
	11 月(大交流会)※		7		7
	12 月	7	10	6	23
平成 24 年	1 月(バス旅行)	5	7	11	23

※愛知県の複数の自治体から家族会が集合して交流する大交流会に家族のみが参加

2.　若年性認知症勉強会の活動

“元気かい”に関わるスタッフ・サポーターや、介護に関わる職種で若年性認知症に関心のある人が参加する勉強会を月1回のペースで実施した。各月で話題提供者を依頼し、“元気かい”の活動につなげていくために、多様な角度から若年性認知症について考える機会を持った。

表3に各月の内容を示す。

表3.　若年性認知症勉強会の内容

日程	テーマ
平成 23 年 4 月 15 日（金） 参加者：16 名	『元気かいの取り組みと今後の展望・勉強会について』 （博愛ナーシングヴィラ：神谷明美） （介護老人保健施設ＬＡ・ＬＡ・ＬＡ：作業療法士　伊藤篤史）
5 月 20 日（金） 参加者：24 名	『ご本人・ご家族からの意見』 （ご本人１名・ご家族２名）
6 月 17 日（金） 参加者：15 名	『本人ネットワークのすすめ』 ～認知症の本人が語る〔私の生きがい〕～ （博愛ナーシングヴィラ：神谷明美）
7 月 15 日（金） 参加者：21 名	『若年性認知症デイサービスの現状』 （ファミリーハウス「とんと」古譚：管理者　伊藤大介）
8 月	夏休み
9 月 16 日（金） 参加者：24 名	『抗認知症薬と併用薬について』 （国立長寿医療センター：薬剤師　吉末泰教）
10 月 21 日（金） 参加者：20 名	『若年性認知症の実態と社会的支援』 （認知症介護研究・研修大府センター：研究部長　小長谷陽子）
11 月 18 日（金） 参加者：13 名	『忘年会（今後の方針元気かいについての打ち合わせ）』 （介護老人保健施設ＬＡ・ＬＡ・ＬＡ：作業療法士　伊藤篤史）
12 月	冬休み
平成 24 年 1 月 20 日（金）	『大交流会について』 （認知症の人と家族の会：代表　尾之内直美）

C.　活動の総括

平成20年度に若年性認知症の人と家族の居場所づくりの一環として本人と家族の交流会を始めてから約4年になる。“元気かい”として活動するようになってから3年になり、活動として定着し、本人・家族ともに月1回の交流会を居場所としてとらえている。また、新たな参加者の加わる月もあり、若年性認知症の本人・家族の交流会として認知されつつある。交流会以外でも、本人を交えて家族同士で出かけることもあり、本人・家族間のネットワーク形成の役割を果たしている。

勉強会には作業療法士、介護福祉士、精神保健福祉士、社会福祉士、ケアマネジャーなどの多職種が関わっており、職業的背景の違いが、視点を変えた気づきや学びにつながっている。

昨年度末に、“元気かい”の仲間で一緒にできることはないかということを検討し、今年度4月から音楽療法士にボランティアで参加してもらい、合唱を始めた。本人同士が小グループに分かれて、スタッフを交えながら交流することはこれまでも行っていたが、音楽療法士が季節の歌を紹介しながら皆で歌うことで、本人同士が全体で交流する時間を持つことができるようになった。

その点について4月の勉強会で、「単に皆が一緒に何かをするというだけでなく、何か目標を置いたほうがさらに一体感が増すのではないか」という提案があり、講演会での合唱の披露を目標として定めた。また、5月の勉強会では、元気かいに参加している本人と家族から意見を聞き、「皆で出かけたい」という希望をもとに、1月の“元気かい”ではバスによる小旅行を実施した。このように“元気かい”と勉強会がリンクしているのも特徴である。

“元気かい”では、スタッフ・サポーター同士がディスカッションする時間を持つことは難しい。しかし、勉強会でディスカッションすることで、スタッフ・サポーターの問題意識の共有や一体感の形成につながり、“元気かい”を支える大きな柱となっている。

若年性認知症デイケアプログラムの紹介のためのパンフレット作成

主任研究者　小長谷 陽子 （認知症介護研究・研修大府センター研究部）
分担研究者　鈴木　　亮子 （認知症介護研究・研修大府センター研究部）

A. 研究目的

若年性認知症の約 8 割は介護保険の認定を受けており、要介護 3 以上の割合が高いものの、全体としては利用しているサービスは、デイケア・デイサービスが最も多い。しかし、若年性認知症だけのためのデイサービス・デイケアはまだ少なく、多くの人は、高齢者向けのサービスを利用していると考えられる。従って、プログラムの内容が合わなかったり、物足りないこと、また、専門職の方でも若年性認知症に関する知識や理解が不十分な場合があり、必ずしもスムーズに利用が進んでいるとは言えない。

認知症介護研究・研修大府センターでは、平成 21 年度から、老人保健健康増進等事業を活用し、老人保健施設ルミナス大府において、若年性認知症専門のデイケアを研究事業として開始した。週 1 回のデイケアであり、男性は水曜日、女性は火曜日とした。9 時半に集合し、挨拶を交わしたり、雑談などでリラックスした後、10 時ころから作業を 1 時間半程度行う。後片付けやトイレなどを済ませたあと、昼食となる。昼食後は、迎えの家族と帰宅する。

若年性認知症デイケアプログラムの特徴として、1）身体機能が保持されており、認知症が受容されていない状態であると、高齢者のような簡単なプログラムでは満足できない、2）今までの職業歴により、好ましい作業と、そうでない作業がある、3）新しいルールを覚えるのは困難なことが多い、4）手続きが少ない作業が望ましい、5）達成感が得られる作業が望ましい、などが挙げられる。

平成 21 年 6 月から続けてきたデイケアの経験のなかで行ってきたさまざまなプログラムを集積、検証し、普遍的に利用できるプログラムを提案し、普及させるために、「ほのぼのデイケア：若年性認知症デイケアプログラムの実践」を作成することとした。

B. 研究方法

開始から、今までに行ってきたプログラムを網羅し、その中から、利用者に評判が良かったもの、喜ばれたものを選ぶ。プログラムごとに、タイトル、方法、材料、ポイントなどを示して、他の施設でも使えるようなわかりやすいものを目指す。

＜若年性デイケアプログラム・パンフレット作り　第１回ミーテイング＞

日時：平成 23 年 6 月 22 日
場所：大府センター会議室
出席者：小長谷、デイケアスタッフ　6 名

●　今までに行ってきたプログラム：

＜作品を完成させるプログラム＞
　塗り絵、七夕飾り作り、フラワーアレンジメント、折り紙、小箱作り、陶芸、ビーズでパッチワーク、クリスマスカード作り、絵はがき作り、バースデイカード作り、封筒作り、クリスマスツリー作り、リース作り、お正月飾り作り、トレイ作り、コースター作り、熊の張り子作り、かご作り、トールペインテイング、ブローチ作り、スタンプを使ったメモ帳作り、うちわ作り、棚作り、カラーボックス組み立て、押し絵、新聞紙を使ったゴミ箱作り、紙飛行機作り

＜ゲームなど＞
　カラオケ、トランプ、カルタ、百人一首

＜料理＞
　バーベキュー、マフィン、餃子、たこ焼き、焼き芋、ワッフル、ドーナツ、かき氷、せんべい、ポテトチップス、炊き込みご飯、味噌汁

＜身体活動を向上させるプログラム＞
　ウォーキング、ストレッチ、車いす整備、障子貼り、電球の交換、庭木の剪定、野菜作り、畑の水やり・草取り、野菜の収穫、足湯に行く、日帰り小旅行、花見、紙飛行機飛ばし、いも掘り、散歩、筋力強化体操、菜の花摘み

＜スタッフの感想＞
＊　男性は障子貼りが良かった、満足感が得られた。作品を作る場合、キット物は工程が複雑で、うまくいかないことが多かった。

＊　女性は手先が器用なので、キット物でも大丈夫だった。

＊　女性は、ネイルをしたら笑顔があった。ハンドケア、マッサージなどのスキンシップも喜ばれた。

＊　クリスマスやお正月などの季節ごとの飾りは、作っているとき季節がわかるからよい。また、継続した作業ができるし、個人のレベルに合わせた作業があるので、やりやすい。1つの物をみんなで作ることができるという点もよかった。さらに、出来上がった作品をロビーなどに飾ると、他の人が見て褒めてもらえるので、達成感、満足感が大きく、家族にも喜んでもらえた。

＊　ゲーム、しりとりのように勝ち負けがあるもの、ルールがあるものはあまり良くなかった。ルールがわからない人はつまらなそうにしていた。

＊　「メンズ・クッキング」男性がエプロンをして料理をするのは、初めは戸惑いがあったが、少しずつ慣れてきて楽しんでいた。

＊　女性は初めてのことでも、きれいだったりするとすんなりできるが、男性は初めてのことをするのに時間がかかる。

＊　物つくりは、能力の個人差が大きい。みんなができること、例えば散歩や足湯はよかった。

＊　毎回、嫌がらずに参加できたことが一番良かった。

＊　男性は食べることが好きなのではないか？　小物の利用もうまくできた。

＊　本人が写っている写真を集めて、アルバムを作ったのはよかった。

＊　電球を交換するなどの作業は「男にしかできないこと」としてとらえているようで、満足感があった。

＊　細かい作業などは、男女間で、助け合うことで、完成できた作品もあった。女性が、紙を六角形にきる、男性が板に穴をあけるなど・・・

＊　完成した作品を家に持ち帰って、配偶者にあげられたことがよかった。

＊　キット物のように、答えが 1 つの物は厳しい、失敗すると落ち込んだり、いやだといい、できない人は取り残され感があり、反省点である。代用ができるもの、応用が利くものがよいと思った。

＊　デイケアに来ることで家族に変化が見られた。教育的にやらせようとしたり、他の人と比較していたが、デイケアでできたことを家族が褒めるようになった。「褒められる」、「必要とされる」ことが少なくなってきているので、本人、家族にとってもよい。

＊　大きな日めくりは日がはっきり分かって使いやすい。

＊　どのプログラムもだめというのはなく、その過程が楽しければ、次の週にも参加してもらえる。スタッフがそれぞれの個人の能力を理解してくると、居心地がよくなるようだ。

＊　大きな作品を作るのは、「切る」、「貼る」、「丸める」、「塗る」、「仕上げ」などさまざまな過程があるので、どの段階の人にでもやれることがあるので、良い。

＊　家庭の環境がわかるようになった。同居していた娘さんが遠くに行ってしまって、夫と 2 人暮らしになったら、爪が伸び放題になって割れていた。手のマッサージをして、ネイルをするということで手入れができた。

これらのプログラムのなかから、パンフレットに採用するものを選択する。

＜若年性デイケアプログラム・パンフレット作り　第 2 回ミーテイング＞

日時：平成 23 年 9 月 14 日
場所：大府センター会議室
出席者：小長谷、鈴木、デイケアスタッフ　6 名

デイケアパンフレットの内容として選択されたプログラム：

＊　クリスマスツリーを作る

＊　ダンボールで張り子のくまさんを作る

＊　市販のキットを使って、カラーボックスを作る

＊　足湯にいく

＊　メンズクッキング

＊　（壁の）桜の木に花を咲かせる

＊　野菜づくり：土起こし、草むしり、苗を植える、水やり、収穫

＊　障子張り

＊　ティッシュボックス作り

C. 結果

若年性認知症デイケアプログラム紹介パンフレット

「ほのぼのデイケア・プログラムの紹介」　→　添付

＊　パンフレットに取り上げたプログラムを含め、実際にデイケアで行った
プログラム全体の表を次に示す。

(*^_^*)・・・非常にうまくいった　(^−^)・・・概ねうまくいった

(−_−)・・・うまくいったものといかなかったものがあった　(>_<)・・・うまくいかなかった

プログラム		手順	注意したこと	作業はうまくいったか 達成感はあったか	なぜうまくいったか うまくいかなかったか 感想
軽作業		**全体には**		(^−^)	・他者からの依頼に応えることで、頼りにされたり、喜ばれたりすることで満足感が得られた ・物ができあがったり、きれいになることで達成感が得られた
1	障子張り	1. 障子を枠から外す 2. 桟に沿って剥がし液を垂らし、少し時間をおいて浸透させてから、障子紙をゆっくり剥がす 3. 桟に残っている紙を、割り箸などでこすってきれいに取り、ぞうきんで拭く 4. 新しい障子紙を大きさに合わせ、カッターで切っておく 5. 桟に障子糊を塗り、紙を貼る 6. はみ出た余分な紙があれば丁寧に切る 7. まんべんなく霧を吹き付ける	・剥がし液を垂らし、液が浸透するまで少し時間をおいてから障子紙を剥がす手順であるが、すぐ剥がしてしまう。そうするときれいに剥がれないので待つようにお願いした ・カッターで障子紙を切るとき、長い物差しを使うのでずれやすいが、スタッフがしっかり押さえることで安心してやってもらえた ・角を切るときカッターの角度が合わせにくいので、人の立ち位置はそのままで障子を回すなどの工夫をした ・糊をつける場所を指さして確認しながらやった	(*^_^*)	・障子は桟があるため、糊をつけたり、紙を切ったりしやすい ・最後に霧を吹くと、障子がピンと張るので、きれいにできたことを嬉しく思い、達成感を感じてもらえたようだ

2	整理棚作り 収納ボックス作り	1. キットを取り出し、説明書を読み、みんなで組み立て方を確認する 2. 引き出しの取っ手などを付ける 3. 順にネジを締めていく 4. ネジの部分にパッチ（目隠し）シールを貼って、完成	・仕様キットを見せながら、説明書を読み、具体的に組み合わせ方を見せる ・ネジへのとっかかりが探しにくいので、ねじ回しを当ててから渡す ・電動ドライバーの場合、ネジを締めすぎないように、すぐ手を引ける形になるよう、スタッフが手を添える ・パッチなどが細かく取り出しにくいので、予め皿などの上に置いておく	(*^_^*)	・棚や収納ボックスが形となってできてくるので、みなさん、とても満足そうだった
3	車いすの整備（さび落とし、空気入れ、リム磨き）	1. 車いすを横に倒したり、逆さまにしたりして、磨きやすい形に置く 2. 大きな埃やよごれは雑巾で取っておく 3. ワックスをつけたタオルでリムを磨く	・錆取りワックスのキャップがうまく開けられないので開けておく ・タオルにワックスを付ける際、うまくタオルに載せることが出来ない人には、スタッフがタオルを持っていて、そこに付けてもらう	(*^_^*)	・以前から作業が好きな人は、自分がきれいにしたという充実感を感じてもらえた ・作業終了後、輪になってお茶を飲んでいるときも、仕事終えたときのようで満足そうだった
	同上	同上	同上	(>_<)	・もともとこういった作業をしていなかった人は不本意そうだった
4	電球の取り換え	1. 切れている電球を外し、新しい電球を取り付ける	・施設管理のスタッフと共に作業 ・電球の取り外し、取り付けの際、電源をオフにする ・三脚を使用する場合は、転倒などに注意する	(*^_^*)	・家でもよくやる作業のためか、手伝いを頼まれると違和感なくやれた

5	戸車の修復	1. 動きにくくなった戸車を外す 2. 戸車を水平になるようにしてネジを締める	・サッシを外し、上下全ての戸車を点検し、付け替えできているか確認する	(*^_^*)	・家でやったことがあるかどうかわからないが、会社などで似たようなことをしていたのか、器用にできていた
6	レジ袋の仕分けとそれを収納する箱作り	1. レジ袋を広げる 2. 似たような大きさごとにそれぞれ分ける 3. 畳んで収納箱に分けてストックしておく	・袋を広げ、大きさを見て仕分けるが、特大・大・中・小に分ける決め手が難しそうだったので、例を示しておく	(*^_^*)	・男性でもレジ袋に関しては、馴染みがあるので楽しそうにやっていた
畑作業		**全体には**		(^−^)	・戸外に出ることは気持ち良く、楽しそうである
7	草むしり	1. 草むしり 2. 土おこし 3. 苗植え 4. 水やり 5. 収穫	・足腰に支障があり、しゃがむことが出来ない人は、段ボールを敷いたり、低い椅子に座って取り組んでもらった	(^−^)	・誰もがやったことのある作業であり、草むしりは好評だった ・除草後のさっぱりした景色を見ながら、木陰で休憩することで、一層心地良さを感じていたようだった。
8	土おこし		・くわをうまく使える人にやってもらったが、他の人はうまくいかなかった	(>_<)	・農作業をやっていた人が上手にやれるのでその人に任せる

9	苗植え		・植える場所に穴を掘ること、苗を入れてから土をかけることを、指さししながら一緒にやっていくとうまくできた	(*^_^*)	・植えているときはその一つの苗に集中しているが、全部植え終えた後、苗がきれいに並んでいるのを見て、「植えたんだなぁ」と充実感を感じているようだった
10	水やり		・水をかけるときは畑全体にまんべんなくかけるようお願いした ・水を止めるときは水道付近で待っていてもらい、こちらのかけ声で止めてもらうようお願いした	(^−^)	・水やりは水を撒く係と、水道を止める係に分けたが、水道を止める係の方がうまくいくようだった
11	収穫（きゅうり、トマト、なす、ゴーヤ、さつまいも他）		・収穫物はかごに入れてもらった	(*^_^*)	・「自分たちが植えた苗」ということで収穫は一番楽しい作業だった
趣味の小物・実用向け 生活小物作り		**全体には ※男性と女性に若干の差有り**		**男性 (−_−)**	・細かい作業が苦手、また趣味の小物作りに関しては関心が薄い ・家族への贈り物などだと楽しんでやれる
				女性 (*^_^*)	・小物作りなどが趣味の人もいたり、細かいことが苦にならないようで、楽しく制作していた

12	陶芸	1. 土を練る 2. 水を少しずつ含ませながら、形を作る （手びねり、たたら作り他） 3. 色・絵付け 4. 焼成 5. ニス塗り 6. 再度焼成	・土が固いので、練るのが難しく、水を含ませて練るよう工夫する。水をうまく使うことができない場合、タオルなどで徐々に水を含ませる手伝いをする ・のすことや、手びねりはうまくできていた ・コップの底などにすきまがある部分については水で生地を伸ばすことを教える	(^−^)	・コップを主に作っていた ・自分や家族が家で使うものができることの喜びが大きいようだった
13	*さくらほりきりセット使用* 季節の飾りうちわ作り	キット説明書の順序に従って作成	・キットが小さすぎて切ったり貼ったりするのが難しかったため、キットの周りを大きめに切って、細かい部分をこちらで切った	(>_<)	・パーツの細かさと手順の細かさで、途中でリタイアした
14	*さくらほりきりセット使用* 干支の壁掛け作り	キット説明書の順序に従って作成	・ベースの部分が決まるとあとのパーツは貼っていくだけなので、場所を教えればうまく貼れた ・小さいキット(ウサギの目など)がうまく貼れない場合はスタッフで貼る	(^−^)	・きれいなパーツを、各位置に貼っていくだけで、景色や模様ができあがっていく充足感がある ・細かいキットがなかなか上手に貼れなかった ・和柄布がうまくできた感を一層引き立てると感じた
15	*さくらほりきりセット使用* 友禅柄和紙メガネケース作り	キット説明書の順序に従って作成	・友禅柄の和紙を、円柱に近い形に巻いていくものなので、最初の接着部分を教えた ・角度のある部分に切り込みを入れると貼りやすくなるので切り込みを入れてもらうようお願いした	(*^_^*)	・細かい切り込みなどは、少なすぎたり多すぎたりするが、糊で貼ってしまうと、皺などはあまり気にならず、できばえは良かった ・自分が使う小物だけに大変嬉しそうで良かった

16	*さくらほりきりセット使用* ブローチ	キット説明書の順序に従って作成	・このセットに関しては紙の余分がないので、スタッフが事前に、よりしっかりと作り方の確認をしておく ・柄の向きなどをよく見て貼り付けるよう注意	(*^_^*)	・慎重に貼り付ける部分への注意はあるが、出来上がった後活用でき、美しいので好評だった
17	*さくらほりきりセット使用* 菓子鉢	キット説明書の順序に従って作成	・八角形の側面に貼る紙の枚数が多く、時間内に完成できるかどうか心配があったので、女性グループの方で予め切っておいてもらった ・蓋のつまみにつける金具は固いので、その構造をよく知った人（以前に工務店をやっていたご本人）にお任せした	(^−^)	・ふだんの活動は男性グループ、女性グループに分かれてやっているが、得意分野を頼まれた場合、協力し合っている
18	創作マグネット	1. 布・リボン・造花などを小さく切ってミニ花束や飾りなどを作る。 2. それらを市販の丸型マグネットに接着剤でつける	布や造花を貼り合わせるときなど、ずれないように押さえたりするのを手伝う	(*^_^*)	・市販のマグネットに飾りを載せるだけでゴージャスな感じになり、冷蔵庫やスチールデスクに貼ったりでき、実用的でとても好評だった
19	各種カード作り ・3D カード ・絵はがき ・バレンタインカード ・クリスマスカード ・礼状 ・暑中見舞い	1. 予めハガキタイプ・見開きタイプなど形を決める 2. 内容に応じた絵や文を好きな絵具で自由に描く 3. 3D カードについては、立体的に折り紙などを折って貼り、作成する	・それぞれの人に応じたカードを選んでもらう ・絵がうまく描けない場合も、シールを貼るなど工夫してもらう ・自由な形であるため、何を書いていいのか、わからない様子だったので、スタッフから 2,3 メッセージを提示する ・絵を入れる箇所、メッセージを書く場所、シールを貼る場所などを確認し、了解を得ながらやってもらう形で進める	(*^_^*)	・カードは簡単に作れて、身近な人に渡せるアイテムであるため、意欲的に取り組めた ・記念に取っておけるのも良い ・男性はカードを書くことにあまり興味がないのではと感じていたが、誰かに（奥さん）に送ろう、と目標を決めると楽しんでやれた

20	牛乳パックの皿つくり	1. 牛乳パックを開く 2. 皿組み立ての線を描き、それに沿って切る 3. 組み立てる	・簡易的な皿なので、ふちを丸く切る部分は線を描き、線の通りに切ってもらった ・四隅を重ね合わせてホチキスで止めるところは、重ね合わせた牛乳パックがはじけないようにスタッフで持っていて、ホチキスで止めてもらった	(*^_^*)	・ホチキスの止め位置がずれることが多かった
21	牛乳パックの小物入れ作り	1. 牛乳パックを開く 2. 組み立ての線を描き、それに沿って切る 3. 組み立てる 4. 取っ手の部分にリボンを巻く 5. 箱の部分と取っ手をつなぐ	・皿より若干難しかったので、スタッフが手を加える部分が多かった ・牛乳パックにボンドがつきにくく、リボンがなかなか上手く巻けなかった ・ホチキスで止めるとき、スタッフでしっかり持っていること	(^−^)	・ホチキスの止め位置がずれることが皿より多く、また取っ手に和紙や布が木工ボンド等でうまく付かなかったため、スタッフも難しかった
22	塗り絵	1. 自分の好きな挿絵を選ぶ 2. 各人好きな絵具を使い、自由に塗る	絵具の使い方、色の選び方を手伝う	(^−^)	・自分の好きな絵具、柄を選んで塗るので上手くやれた
23	紙飛行機作成	キット説明書の順序に従って作成	・翼の向きを間違える場合があるので、注意した ・プロペラの巻ゴムの設置が難しい人がいたので注意した ・翼、本体に絵など描く時、作ってからでは描きにくいので、組み立てる前に描いてもらうよう伝えた	(^−^)	・自分の好きな形を選んで作成に取りかかれた ・多少手順が違っても、見栄え良くできた ・夢中になってやれていた ・飛ばすときも何度も拾いに行っては飛ばしていた

24	和布のコースター作り	1. ベニヤ板を 10cm×10cm くらいの四角形に切る 2. ベニヤ板に木工ボンドで布を貼る 3. その上にコースターとして使いたい柄の布を貼る 4. リバーシブルで使えるよう、布を両面に貼る	・板はベニヤ板なので工作ばさみで切りやすかった ・板に和布を貼るとき、木工ボンドと布がうまくつかず伸びたりしわが寄ったりして困難だったが、スタッフと一緒に引張りながらやれた ・布を切るとき、布切ばさみがうまく使えないところは、スタッフで切っておいた	(^−^)	・コースターの柄も迷いながら、奥さんの好みの柄？を探しているようだった。勧めたものが気に入ると「いいねえ」と言って貼っていた
25	CD ラベルのペイント	1. 音楽はスタッフの方で準備する 2. CD 表面にステンシルで名前や簡単な柄を入れ自分専用で聴ける CD とする	・ラベルが真っ直ぐで絵を描きやすかったので、自分の好きなイラストを選んでステンシルで模様を落としていった ・スタッフは筆に水分が多くならないように注意することと、ステンシルの型がずれないように保つことに注意した	(^−^)	・家で時々CD を聞かれるということで好評だった
26	アルバム作成	1. デイで撮影した写真の中から、自分の写真や思い出深い行事の写真を選ぶ 2. 吹き出しコメント、イラスト、写真が映えるような切り込み、台紙を加える 3. シール面を剥がし、スタッフと一緒に貼っていき、空気が入らないように閉じる	・どこに貼るか相談すると考えがまとまる ・写真が大きい場合、切ったりする工夫は見られないので、スタッフが線を引いて切ることを指示する	(*^_^*)	・写真を選ぶ時にいろいろなことを思い出し、その時点で大成功と感じる。 ・写真を指さしての会話も多く、とても楽しかった

27	ティッシュボックス作り（イラスト添付・ペイント・ステンシル）	1. ティッシュボックスの板のサンドペーパーかける 2. パーツを白のペンキで塗る 3. ボックスの各面にトールペイント、ステンシル、デコパージュなど得意なもので絵や字を描く 4. その上からケマージュ（特殊糊液）を塗る 5. 乾いたらニスを塗り、また乾かして再度ニスを塗る	・最初の段階の白のペンキは上手に塗れる。忘れている角、ふち、裏も指摘すれば上手に塗れる ・ティッシュボックスは面積が広いので、ステンシルでイラストを描くのは難しいと判断し、イラストを添付する形で行う ・先にイラストを選んでもらい、貼れる形にイラスト通り切る。糊付けは歪んだりしわになるが自分で貼れるところまで貼ってもらう。歪んだりしわになったりちぎれた部分はあとでスタッフが修正する ・ニスもペンキと同じように上手に塗れるので、特に注意なく、塗るときは見守る	(*^_^*)	・自分で作ったグッズが、家や施設内で利用されることに、とても嬉しそうだった。家族に重宝がられたことも満足そうだった
28	うちわ作り	1. 昔のうちわで絵が剥げたり破れているものを、水を張った洗面器に漬け、紙をきれいに剥がす 2. うちわの大きさより少し大きめに好きな絵柄（雑誌・包装紙・カレンダーなど）を型どって切る 3. うちわの骨に糊をつけ、絵柄を貼る 4. 絵柄のはみでたところを丁寧に切り取る 5.「耳」と言われる補強部分をつける	・元の紙を剥がすのがなかなか難しかったが、種類によって長く水に漬けておくときれいに剥がれたり、スポンジでこするときれいに剥がれるなどコツがわかってきてからはうまくやれた ・絵柄を選ぶのに迷うことが多かったので、スタッフの方から、2,3 提示した	(^−^)	・この夏、節電の協力もあったことで、みんなの意識も高まり、一所懸命やれた ・皆、できあがった後は一様にあおいでみて涼しさを楽しんでいた
29	クリスマスパーティ用お皿・コースター作り	1. 牛乳パックを開く 2. 四隅に切り込みを入れる 3. 切り込み部分を重ねてホチキスで止める 4. 皿の上をアルミホイルでぴったりと覆う	・切り込みをホチキスで止めるときずれることが多かったので、その部分をスタッフが持っていた ・アルミホイルは破れることが多かったので、予め若干のしわをよせてもらった。しわがあると風合いも出てよかった	(*^_^*)	・アルミホイルのしわは敷きやすいばかりでなく、風合いが出たことと、使ってみて、食品が滑らず置きやすかったり、醤油などを入れてもつけやすくとても実用的で良かった
館内ディスプレイ 季節のオブジェ	**全体には**			(*^_^*)	・みんなで少しずつ作っていた物が最終的に大きく華やかなオブジェになるところに協力し合って完成した感激があり、達成感がある

30	七夕飾り	1. 芯になる形を作る 2. 七夕飾りを作る ・短冊 ・提灯 ・折り紙・色紙飾りなど 3. みんなで飾る	・折ること、切ることなど得意な作業が違うのでそれぞれにできる飾りを作る ・他の人が作ったものについて、作り方を尋ねたり、七夕を楽しむために協力してもらったことに礼を言う(オブジェなので施設のためにやってもらったものである)	(*^_^*)	・それぞれが自分の得意な飾りを作れるので、好き嫌いや、難易度が違っても問題がない ・みんなで少しずつ作っていた物が最終的に大きく華やかなオブジェになるところに、協力し合って完成した感激があり、達成感がある
31	クリスマスツリー	1. 芯になる形を作る 2. ツリーの飾りを作る ・リボン ・リース 3. 鐘・ローソク・プレゼント・木の実など小物を飾る	同上	(*^_^*)	同上
32	正月飾り	1. 芯になる形を作る 2. 正月飾りを作る ・角松 ・ミニ扇子 ・花餅　など 3. 飾りを飾る	同上	(*^_^*)	同上

33	バレンタインのオブジェ	1. 芯になる形を作る 2. 卵を使って飾り小物を作る 1）生卵に細い穴をあけ、ストローを差し、中身を吹き出す 2）卵にきれいな色の絵の具等を塗ったり、ラメなどを塗りバレンタインに合った感じに仕上げる 3）棒を組んで、糸をかけ、卵を吊るす	・卵の中身を抜くのが難しいので、まずスタッフが実践する。そのあと一緒にやってもらう。 ・中身を抜いた卵に色を付ける時も、飾るときも丁寧に扱わないと壊れるので慎重にやってもらう	(^−^)	・それぞれが自分の得意な飾りを作れるので、好き嫌いや、難易度に問題がない ・みんなで少しずつ作っていた物が最終的に大きく華やかなオブジェになるところに協力し合って完成した感激があり、達成感がある
34	張り子のクマ	1. クマの型をとり、立体的にし、新聞などで中身を作り、その中に詰める 2. 本体が立体的にできあがったら、糊で固める 3. その上にクマの色を塗る 4. 目鼻を入れ出来上がり	同上	(*^_^*)	・この張り子のクマは季節のオブジェのお供として、いろいろなディスプレイに使えるので便利 ・お正月には着物を着せたり、桜の花の横にはランドセルを背負った小学生バージョンとして利用し、楽しめる
35	階段下の花壇	1. 花壇に設置する花（チューリップ、水仙など）を折り紙などで作る 2. 石なども新聞紙などで立体的に作り、色をつける 3. 花壇の石などで庭らしく設置する	同上	(*^_^*)	・花壇を設置した場所は、車いすなどが置いてある場所で目立たない所であったが、そこに設置することによって施設内も明るくいい雰囲気になり、それを見ると気分も明るくなった

36	リース作り（家庭用・施設用）	1. さつま芋のつるを集める 2. 青いうちに巻いておく 3. 干して乾燥させる	・芋のつるを巻いていく作業では、一度スタッフがやり見てもらった。それでも実際自分が巻くときはうまく巻けないので、最初の 1～2 周は巻いて渡した ・どのくらいの量を巻いていいのかわからない様子だったので、注意していて、切り上げるところを伝える	(*^_^*)	・力作業でもあるので、男性は得意とするところだったと思う ・リースの直径を大きく作ったり小さく作ったり楽しくやれていた
37	クリスマスリース　飾り付け	1. みんなで作ったリースに好きな木の実、リボン、飾りなどをつけていく	・スタッフの提案した飾り付けでやってもらったため、リボンを巻く作業、グルーガンで木の実を貼り付ける作業、ワイヤーで星など小物をつるす作業など全部細かく指示をしてやってもらう	(^ー^)	・リースの飾り付けそのものへの興味や関心は少なかった。リースのイメージもないので、スタッフが飾り付けを考えた感じになってしまった ・それでも美しいものが出来たことと、季節の飾りであるので、出来上がったものを見て満足そうだった
クッキング		**全体には**		(^ー^)	・食べることはみんなの楽しみのひとつである。しかし今まで台所が馴染みの深い場所とは言えなかったため調理器具の使い方などに苦労する場面もあった ・それでも男の料理らしく豪快に「食べられたらいいさ！大きくても小さくても胃の中では一緒になるんだから！」のかけ声で楽しく作れた

38	きな粉入りどら焼き	1. 分量を量って準備する 2. ホットケーキミックスのもとと卵、牛乳、バターなどを混ぜる 3. そこにきな粉を混ぜる（量は好みで入れ、堅さは牛乳で調整） 4. ホットプレートを温め、直径 10cm くらいに流す 5. いくつか焼けたら冷まして、小豆をはさみ、どら焼きにする 6. 自分たちで作ったお皿に盛っていただく	・ホットケーキをフライ返しで返すとき若干難しいようで慎重にやっていたが、慣れてくると段々上手になってきた	(*^_^*)	・きな粉の風味はみんなが好みだったようで、とても満足そうだった
39	焼き芋 ふかし芋	1. 芋を洗う 2. オーブンを「焼き芋」メニューにして焼く。または 10cm 幅位に切ってもらい、蒸し器でふかす	・生の芋は固いので包丁で切ってもらうとき、添える方の手などに気をつけてもらう	(*^_^*)	・サツマイモはみんな好きなようで美味しくいただけ、話もはずんだ ・ふかし芋もなかなか人気があり、この年代の人にも馴染みの深い食べ物のようだった
40	ワッフル	1. ホットケーキミックスを分量どおりに混ぜる 2. ワッフル型に流す 3. 泡立てたクリーム、ジャム、パウダーシュガーなどかけて戴く	・器具で焼くので特に問題はなかった ・こういった調理用具を使用するのも良いと感じた	(*^_^*)	・ワッフル型があるので、目先も変わって美味しく戴けた
41	ぜんざい	1. ゆで小豆の缶詰を缶切りで開けてもらい、鍋に入れ水でのばし火にかける 2. ホットプレートで餅を焼く 3. 椀に餅を入れぜんざいをかけて戴く	・缶切りでの出だしがわかりにくそうだったので缶切りの最初のとっかかりと、進む方向に角度を合わせてから缶切りを渡した。 ・缶切りで開けてもらっているときケガの無いよう注意した	(*^_^*)	・餅は家でついた餅だったため、既製品との違いを話したり、話題は味覚にまで及び、ぜんざいを食べながら話が弾んだ

42	炊き込みごはん・豚汁・プチホットケーキ	1. 米をとぐ 2. 炊き込みご飯の素と分量の水を入れて炊く 3. ご飯が炊ける間に豚汁用人参、大根、ネギ、豚肉などを切る 4. プチホットケーキも材料を併せてホットプレートのタコ焼きのところで焼く	・平行していくつかの作業をするので、みんなにまんべんなく仕事がしてもらえるよう気を配りながらする ・同じ人が同じ仕事にならないように気をつける	(*^_^*)	・ご飯、汁物、お菓子と、一度に平行していろいろなメニューが作れたことに満足しているようだった
43	バレンタインお菓子さつまいもトリュフ	1. 蒸したサツマイモを熱いうちにすりこぎで潰す 2. その中に湯煎で溶かしたチョコレーット、バター、砂糖を入れよく練る 3. 調理用手袋をはめて手の上で団子のように丸める 4. 丸めたものをバットに入れた、ココア、きな粉、抹茶のなかで転がし味と色をつける	・丸めるとき、最初から丸めるのは難しいためラップに包み、茶巾しぼりのように少し形をつけた物を渡す	(*^_^*)	・元がサツマイモであるので、チョコが混ざっていても、芋の風味があり、美味しかった ・また体にも良い食物が使え、数も多くできたのでよかった ・バレンタインの贈り物として、家庭にも持ち帰ってもらった
44	焼きそば・おむすび	1. 先にお米をといで炊いておく 2. 焼きそばの野菜（キャベツ・タマネギ・人参など）、肉を切り、炒め、焼きそばを入れ炒める 3. おむすびの係の人でおむすびを準備する 4. 焼きそばにかけるソースを、焼きそばソースと、塩だれソースに分ける	・おむすびを握ってくれる人には、予めラップにのせたご飯を軽く丸めたものを渡す。そのあと三角を作ってもらう。 ・焼きそばに半分ずつソースをかけるとき均等に分けてもらえるよう声かけする	(*^_^*)	・焼きそばソースの味の違いが楽しめ話が弾んだ。 ・おむすびは三角や俵型や丸形ができて笑いながらいただけて良かった
45	カレーライス	1. 野菜・肉を切って煮る 2. 煮えてきたらカレー粉を入れる	・カレーの水の量に気をつけた ・熱いので火に気をつけた	(*^_^*)	・水が少し多くなってしまったが、カレーは馴染み深い食べ物であるので、みんな喜んで食べた

46	春色ちらし寿司・おいなりさん	1. お米をといで炊いておく 2. ちらし寿司に入れる、キュウリ、ショウガなどを切り、ホットプレートで薄焼き卵を焼く 3. ご飯が炊けて少し冷ましたら、いなり寿司の合わせ酢を、半分の量のご飯に混ぜる 4. 残りのご飯にちらし寿司の素を混ぜ込む 5. 半分ずつきれいに盛る	・卵焼きを焦がさないよう早めにひっくり返してもらう ・いなり寿司にいれるご飯は、適量を丸めて皿に置いておく ・ちらし寿司の飾りは偏らないよう均等に散らしてもらう	(*^_^*)	・寿司飯に関しても馴染み深く、この年代の人は好きなようで、ちらし寿司もいなり寿司もどちらもいいね、と好評だった
47	桜餅	1. ボウルに分量の白玉粉と小麦粉を入れ混ぜる 2. 色を見ながらほんの少し食紅を入れる 3. ホットプレートに、丸くのばし焼く 4. 皮が冷めたら、こしあんを包み桜の葉で巻く	・食紅を入れすぎないよう、つまようじなどを用い少しずつ足してもらう	(*^_^*)	手順が簡単なので誰もがうまくできた。また、前回作ったさくら堀切菓子鉢にセッティングし、ホワイトデーのお菓子として家庭にも持ち帰ってもらった。
48	クリスマス会・たこ焼きパーティなど全体会での調理	作ったもの ・クリスマスケーキ ・餃子 ・たこ焼き ・おむすび	・それぞれの料理を係に分かれて作った。 ・ケーキ台に生クリームを塗る人、たこ焼きのキャベツを切る人、ウィンナを調理はさみで切る人、おむすびを作る人などそれぞれの持ち場でスタッフと共に調理できた。 ・刃物を使うときや細かい作業はスタッフが声掛けし、見守りながらやってもらい、声掛けは最低限にした	(*^_^*)	・大勢でやる楽しさや、自分の責任で任されて作る料理への真剣な取り組みがみられた ・他の人の作ったものを見たり食べたり、いろいろな場面ができたことが良かった。
屋外活動		**全体には**		(*^_^*)	・外に出るのは気持ちがよいものであるし、暑い日も、寒い日も短時間であれば体への負担も少なく、季節感を感じるという意味でとてもよいと感じられた

49	健康の森公園　散歩（春・秋）	・近くに散歩に最適の公園があるので、体調・天候を考慮しながら、天気の良い日は朝のうちに散歩に行くようにしている	・それぞれの体調をよくみてでかける ・車椅子を 1 台用意して出かける ・広く座れる場所を見つけておく	(*^_^*)	・桜の花や紅葉を見ながら、また公園内で遊ぶ子供たち、散歩に連れてきた犬などを見ながら休憩すると、話が自分の家のことにまでも広がり、とても楽しい。
50	花見	・花見は恒例の行事だったことが多いと思われるので、季節には花見をしながら、お昼ご飯などを皆でいただく	・花見のできる近くの公園に、現地集合で行くので事前の打ち合わせを十分する	(*^_^*)	・花見の時はご家族にも声を掛け、普段話せない人も集まることができるので交流が生まれ、楽しく過ごすことができる
51	常滑焼散歩道　散策	・季節の良い時には、安全な場所でみんなが行きたい場所などを話し合って、ご家族の協力等があれば車で出かける	・下見（トイレ・休憩所の状態の確認）、体調管理、ご家族への打ち合わせ等事前にしっかりやっておく	(*^_^*)	・協力し合うことができ、充実した外出ができた
52	足湯 2～3 回/年	・近くに温泉があり、広くて入りやすい足湯があるので秋口から春の始めくらいまでの間に、年によって 2,3 回は行く	・下見（トイレ・休憩所の状態の確認）、体調管理をしっかりやっておく ・タオル・バスタオル・防寒用品は多めに用意しておく	(*^_^*)	・寒い冬は外出時の体調管理に気を付けながら、足湯に行くことにより、体も温め、血行を良くし、会話も弾みとても良い雰囲気になれる。
53	紙ヒコーキ飛ばし	・施設の屋上で外の空気を吸いながら、紙飛行機をとばしてみる ・屋上から見える四方の景色も楽しむ	・風が強い日は、歩く時や紙飛行機を飛ばすときに気を付ける ・屋上の外に飛んで行かないように、真ん中辺りで飛ばす	(*^_^*)	・それぞれに紙飛行機やそれの飛ばし方に思い入れがあるようで、楽しくやれた ・少年時の楽しさが甦ってくるようで無心に遊べた

54	凧あげ	・屋上で外の空気を吸いながら、凧あげをする。 凧を持ってもらってスタッフが走ってあげる ・屋上から見える四方の景色も楽しむ	・凧を高く持ってもらえるよう注意する ・上手く飛ぶよう、風の向きも一緒に考えてもらう	(*^_^*)	・凧あげはみんながやったことがあるので、楽しくできた ・冷たい風に当たることも健康的で気持ちよかった
55	豆まき	1. 豆を入れる容器を牛乳パックで作る 2. 年の数の豆を数えて容器に入れてもらう 3. 屋上、館内に豆をまきに行く	・豆を数える際、スムーズに数えられるよう一緒に数える	(^-^)	・数えることがなかなか難しくなってきた
屋内 リクレーション		**全体には**		(^-^)	・天気が悪く作業がない日などゲームなどすることもあるが、ルールの把握が困難な場合がある ・スタッフとペアになって楽しめる人と、ルールがわからないことが不安でそうでない人がいる
56	お正月かるた・トランプ	・カードはスタッフが配ったり、読んだりする	・本人が自然に札を見つけやすくするよう配慮する	(^-^)	・取った枚数などに他の人と差ができることを好ましいと思っていない
57	体操	・いろいろな音楽に合わせて体操をする	・音楽はいろいろなジャンルにする ・難しくない動きで、座ってもやれる体操にする ・楽しく体を動かす	(*^_^*)	・みなさんご家庭でも積極的に体を動かしているようなので、体操に関しては拒否なく楽しくやっている

若年性認知症デイケア
実践的プログラムの紹介

ほのぼのデイケア



はじめに



「認知症」は、もの忘れをおこす病気です。
高齢者の病気と思われていますが、若い世代でもかかることがあり、
65 歳未満で発症した場合、「若年性認知症」といいます。

現役世代であり、社会の一員であり、家庭の中心にいた人が、
病気になると仕事を辞めたり、役割を果たせなくなってしまいます。



もっと
体を動かしたい

もっと
社会の役に立ちたい

もっと
仲間と一緒にいたい

もっと
家族を喜ばせたい

こんな願いは無理なのでしょうか？

認知症でも、仲間を作り、ものを作り、達成感を持ち喜んでもらえること、やっています。
いつもの生活をちょっと工夫して楽しい日々をおくること、いっしょに始めてみませんか？

若年性認知症デイケア
実践的プログラムの紹介

ほのぼのデイケア

目　次

	Page
若年性認知症とは…	3
デイケアの必要性、デイケアプログラムの意義（達成感療法）について	4
始める前に…	5
取組みの紹介	
●張り子のくま作り	6
●壁飾り～桜～	8
●野菜作り	10
●クリスマスツリー	12
●ティッシュボックス作り	14
●フラワーアレンジメント	16
●整理箱作り	18
●障子張り	20
●メンズクッキング	22
●足湯を楽しもう	24
●交流イベント	26
社会参加に向けて	26
デイケアの効果	28

若年性認知症とは…

65歳未満で発症する「若年性認知症」の人は、現在、全国で約38,000人くらいです。65歳以上で発症する、「認知症高齢者」は、200万人とも、300万人ともいわれていますので、それに比べれば、かなり少ない数です。

女性より、男性に多く、（有病率の男女比は、57.9人：36.7人）、原因疾患も血管性認知症が最も多く、多様であるのも特徴です。
発症年齢は50歳代前半が多いとされており、まさに現役世代です。

会社で中核的な立場にある人、自営業でばりばり働いている人、家庭でなくてはならない存在の人、このような人たちが、病気になり、仕事や家事がうまくいかず、ミスが増えてきて、不安と焦燥のなかにおかれます。
本人も家族も、認知症とは思い至らず、時間を過ごしてしまうことも少なくありません。

認知症と診断され、治療が始まっても不安や焦りは消えるどころか、ますます大きくなる場合があります。
仕事場や家庭で居場所がなくなり、閉じこもりがちになってしまうと、心が内向きになり、認知症の進行にも影響しかねません。

若年性認知症の約８割の人は介護保険の認定を受けており、要介護３以上の割合が高く、利用しているサービスは、デイケア・デイサービスが最も多くなっています。
しかし、若年性認知症のひとだけのためのデイサービス・デイケアはまだ少なく、多くの人は、高齢者向けのサービスを利用していると考えられます。従って、プログラムの内容が合わなかったり、物足りなかったりします。
また、専門職の方でも若年性認知症に関する知識や理解が不十分な場合があり、必ずしもスムーズに利用が進んでいるとは言えません。

そこで、認知症介護研究・研修大府センター（大府センター）では、若年性認知症に適した、デイケアプログラムの開発を目指すことにしました。

デイケアの必要性、デイケアプログラムの意義（達成感療法）について

大府センターでは、老人保健健康増進等事業を活用し、平成 21 年度から、老人保健施設ルミナス大府において、若年性認知症専門のデイケアを開始しました。

一日のスケジュール

週1回のデイケアで、男性は水曜日、女性は火曜日です。

家族に送られて９時半に集合し、挨拶を交わしたり、雑談などでまずはリラックスします。その後、10時くらいから1時間半程度作業を行います。後片付けやトイレなどを済ませて、昼食となります。昼食後は、迎えの家族と帰宅します。

若年性認知症デイケアプログラムの特徴として

1. 身体機能が保持されており、認知症が受容されていない状態であると、高齢者のような簡単なプログラムでは満足できない。
2. 今までの職業歴により、好ましい作業と、そうでない作業がある。
3. 新しいルールを覚えるのは困難なことが多い。
4. 手続きが少ない作業が望ましい。
5. 達成感が得られる作業が望ましい。

などが挙げられます。

この２年半の間、デイケアの経験をもとに、さまざまなプログラムを行ってきましたが、そのなかから、好評だったものなどをいくつか選んでみました。若年性認知症のデイケアに興味を持ってもらえ、実践できるよう、わかりやすく解説しました。

若年性認知症の人にとって、心の温まる居場所になればと「**ほのぼのデイケア**」という名前がついています。

始める前に…

では、若年性認知症のデイケアを始めましょう。

まず最初に

若年性認知症の方は、認知症高齢者にくらべて人数が少ないので、デイケアができるだけの人数を集めなければなりません。何人がよいかは、若年の専門デイであるのか、高齢者といっしょなのか、スタッフの数、スペースや施設内外で使える資源などにより、異なってきます。

大府センターの場合は、研究事業ですので、ほぼ1対1のスタッフが確保できました。

利用者さんの男女比も重要です。男女一緒に行うか、別々とするか、スタッフを同性にするか否か、家族の協力度は？　通所方法は？…などを検討することが必要です。

苦労したこと

～初めの頃～

女性の場合は、利用者さんどうしも、スタッフと利用者さんの間も、すぐに打ち解けて話が弾み、作業への導入もスムーズでした。しかし、男性の場合はそうはいきません。スタッフのほとんどが女性であったためか、話の出だしからうまくいかず、共通の話題もみつからず、シーンとする場面もありました。男性の利用者ご自身も、このような場で会話する経験が少ないためか、なかなか話にのってきません。

しかし、会を重ねるうちに、顔なじみになって来て、「今日は○○さんはきとらんね。どうしたのかね？」などと気づかう言葉も出てくるようになりました。

今ではすっかり仲良くなって、デイの時間以外でも家族どうしで交流している人もいます。

～他にも～

現役の時の仕事の内容や身分によっては、デイで行う作業が合わない場合があります。特に男性で、管理職やホワイトカラーだった人は、手が汚れるような仕事に拒否感を示す場合もあります。経歴などをよくアセスメントする必要があります。

しかし、あまり、堅苦しく考える必要はありません。

とにかく、始めることが大切です。



張り子のくま作り

参加者　男性・女性　　所要時間　1時間・5回

ねらい

身近な材料で、なおかつ簡単な作業でできるものを作る。皆で一緒に一つの物を作りあげることで、一体感や達成感を感じることができる。他の人に見せることができ、ほめられることや喜ばれることで嬉しいと感じる。また、完成品は季節を感じるものと一緒に飾ると、繰り返し楽しむことができる。

作り方

1 ダンボールをくまの形に
はさみやカッターで切る。





けがに注意！

3 白い紙（古い和紙など）を
小さくちぎって貼りつける。



2 新聞紙をちぎり丸めて、台紙（1）に
セロハンテープで貼り、肉付けする。





- 個々のできることを分担して行う
- 一緒に行うことが大切！

4 シーラー（下地処理の塗料）⇒
絵の具（又はアクリル絵の具）で色つけ⇒
ニスの順で塗る。

5 よく乾かす。



塗り残しや難しい部分はスタッフが
カバーし、仕上がりをきれいにする。

材料 など

ダンボール・新聞紙・セロハンテープ・下地（シーラー）・絵の具（又はペンキ）・ニス・はさみ・カッター・ふで・刷毛

完成品です！





参加者の声



男性参加者

- すごくかわいい。家にも持って帰りたい。
- 立派なのができた。
- 孫にもつくってあげたいなぁ。

- 大変だったけど、出来上がったらかわいい。
- 素敵なのができた。
- 自分のも欲しい。



女性参加者

施設利用者の感想

- 正月だね～くまも着物をきとるがね～



季節によって、飾り付けを変えて繰り返し楽しめます！

注意点

- 単調な作業のため、飽きないように適宜息抜き（他の作業など）を取り入れるなど配慮する。
- 1回での完成を目指さず、複数回で完成するよう計画する。

壁飾り～桜～

参加者　男性・女性　　所要時間　1時間・8回程度

ねらい

桜の花びらを折り紙で形作り、春らしい壁面の飾りを作成。
完成したものが皆の目に触れ、達成感や充足感を感じられる。また、季節感を感じることができ、華やかな気分を味わうことができる。男女問わず全員が参加でき、一体感を感じられる。

作り方



● はさみの使用の際、けがをしないように注意!!

1 各パーツの作成

【花びら】
1. 華やかになるよう桜の花の色を考える。
2. 折り紙を花の形に切る。
3. 切込みを入れ、花を立体的にする。



【桜の幹】
ダンボールを幹の形に切り、色を塗る。



【附属物：花さか爺さん、すずめなど】
花さか爺さんの型紙をはさみで切る。

2 各パーツを貼る台紙を作成。



3 台紙に各パーツを貼っていく。



● 花を貼るとき両面テープを使用。
● はがれないように糊付けはしっかり。
● 多くの人に参加してもらうため、通りかかった人にも貼ってもらう。





材料 など

折り紙・カラー画用紙・ダンボール・細いワイヤー・発砲スチロール・割りばし・
両面テープ・のり・ダンボール専用はさみ・絵具・新聞紙

完成品です！



次の年には、しだれ桜にして、
入学式バージョンにしてみました。
張り子のくまもランドセルを
しょって再登場！



参加者の声

- いい感じ！春だなぁと思う。



男性参加者

- きれいにできた！
- 華やかになって春らしい。
- 花見（本物）に行ってみたい。



女性参加者

施設利用者の感想

- 玄関が明るくなって、そばを通るのが楽しみ。

注意点

- デイケア参加者以外の人にも桜の花を貼ってもらえるようにし、多くの人と一体感や季節感を共有できるようにする。



野菜作り

参加者　男性・女性　　所要時間　夏:30分／春･秋:60分

ねらい



野菜を育て、収穫し、食べることにより、みんなで力を合わせて育てたことに対する達成感を味わう。また、働くことの心地よさや、自然や季節感を感じることにより、心身の健康を保てるようにする。

作り方

1 土を起こす



● くわがうまく使えない場合、スタッフが手を添え一緒に持ち、掘り起こす。スタッフが準備しておく場合もある。



2 草むしり（随時）





● かがむことがうまく出来ない人には、段ボールなどを使い、座りながら行ってもらう。



3 苗を植える



● 農作業に従事したことのある人に各野菜の苗の植え方（植える深さ、苗の間隔が違う）を教えてもらいながら植える。



4 水やり





10

材料など

夏野菜の苗、茄子、胡瓜、ゴーヤ、ししとうなど200円くらいのもの

近所の方や、職員さんなどからの頂き物も！

みんなで収穫！







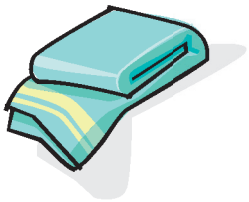




参加者の声

- 育っていくのを見るのは楽しいねぇ〜。
- 暑いときの草とりは疲れるけど、休憩のときは気持ちいい！







男性参加者

- 漬物はぱぱっとできるので、お昼のときに一緒に食べられるのがいいね♪



女性参加者

注意点

- 暑い時期の作業時には、熱中症予防に気を配る（帽子、水分、タオルなどの準備）。
- 作業しやすい恰好のお願い（転倒防止の意味）や軍手の準備。
- 畑作業をやる日もやらない日も育ち具合のチェックをする。



クリスマスツリー

参加者 男性・女性　　**所要時間** 2時間・10回
（上記以外にスタッフが10時間程度）

ねらい

畑で育てたサツマイモのツルや、散歩でひろった木の実が、姿をかえて作品になるという驚きがある。季節を感じることができる。切る、貼る、丸める、結ぶなど、さまざまな作業が含まれるので、認知症の程度の違いに関係なく、誰にでもできる工程がある。
完成作品を飾って多くの人に見てもらえる。

作り方

1 園芸用のプランターを置くスタンドを土台にして、細い竹の棒で、円錐形の枠組みを作成。直径 60cm、高さ 180cm くらいのものをしっかりと作る。

2 枠組みの周囲にサツマイモのツルを巻きつけて、ツリーを作る。



3 散歩で拾った木の実（松ぼっくり、どんぐり、椿の実、なんきんはぜなど）を、金銀のスプレーで染めて、オーナメントを作る。他に木の枝に色画用紙で作った葉っぱをつける。紙粘土でクッキーの抜き型を利用して、星や花を作り、色づけする。

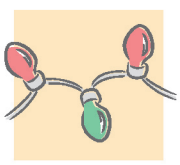
4 3 で作ったオーナメントを、グルーガンやワイヤーでツリーにとめ付ける。

5 紙製の雪だるまや、発砲スチロール、きれいな包装紙で包んで作ったプレゼントなどを作り、ツリーの根元に置く。

6 ツリーのてっぺんには、厚紙で作った星やリボンを飾り、全体にライトをつけて完成。







● 葉を完全に取って乾燥させたもの。乾燥しすぎるとうまく巻けないので適度に乾燥！









材料 など

細い竹あるいは園芸用支柱・サツマイモのツル・木の実適宜・紙粘土・絵具・金銀スプレー・リボン・包装紙・色画用紙・園芸用ワイヤー・木の枝・園芸用はさみ・工作用はさみ・ラジオペンチ・グルーガン

完成品です！



参加者の声

- 頑張ってやった。
- すごいなぁ。
- きれいだなぁ。



男性参加者

施設職員の声

- これを売って欲しいと言っていた人がいましたよ。

施設利用者の感想

- もったいなくて売れないわよね～

家族の声

- みんなで作るとこんなにきれいで豪華なものができるんだねぇ。
- 散歩に行っても、ついつい飾るものを探してました。

- イモのツルのツリーができた。こんな立派なものができるなんて思わなかった。
- 素敵な作品になった。
- 作業中、大変だったけど、できあがると嬉しい。



女性参加者

イモヅルの台を使用し、クリスマス、お正月、七夕飾りも作ってみました！
繰り返し利用できるので、何度も楽しめます！

注意点

- はさみ、ワイヤー、グルーガンの取り扱いには十分に注意する。
- 見本があった方がよいものは、あらかじめ作っておく。



ティッシュボックス作り

参加者　男性・女性　　所要時間　1時間30分・3回

ねらい

ボックスティッシュを入れるケースを作る。
工程が沢山あり様々な作業ができるので、作業に変化が持てること、また完成後部屋に飾ったり使用したり、身近で活用でき、自分の作ったものが使用できることに満足感を感じられる。

作り方

1 ボックスキットをサンドペーパーで磨く。

●ふたなどの狭い側面部はペーパーを当てにくく磨きにくいので、ペーパーを下にしき、木をこする要領で磨いてもらうと安全にできる。



3 ペンキが乾いたら絵を描く。

(A) トールペイント…描ける人は自分の好きな絵や雑誌の絵などを参考にして描く。

(B) ステンシル……トールペイントが難しい場合、ステンシルで模様をつける。

(C) デコパージュ……自分で描くのが難しい場合、紙ナプキンの絵などを貼る。プリント布は破れることがないので扱いやすい。

4 絵の上にニスを塗る。



●ペンキ同様、最後に塗る面を考えて塗る
●二度塗りするときは、しっかり乾燥してから。



2 ボックスの面に好きな色のペンキ又はアクリル絵の具を塗る。





●乾かすときのことを考えて、最後に塗る面を考えて塗る。

▼ステンシル



材料 など

ティッシュボックスは近所の工務店で作ってもらう。サンドペーパーがかかっていない方が、磨く作業ができるので良い。1個800円程度。

ペンキ又はアクリル絵の具、トールペイント・ステンシル用塗料、ニスなど適宜。

完成品です！



参加者の声



男性参加者

●家で使えるのでうれしい！



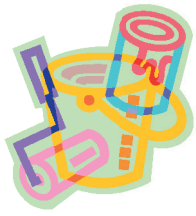
女性参加者

●木箱だと丈夫だからいいね！

家族の声

●ボックスティッシュのケースはあまりないので役にたつ。
●これお母さんが作ったの？!





注意点

●普段も工務店で木切れをもらっていて、何か作るとき活用している。普段からの結びつきが大切 。



フラワーアレンジメント

参加者　女性　　所要時間　1時間20分（準備も含め）

ねらい



オアシスに花を自由に挿し、飾ったりして楽しむ。
散歩の折見つけた花や枝などの形を変えたり、長さを調節して変化を持たせて生けることにより、楽しみながら創作意欲を満たすことができる。

作り方

※できる作業に違いがあるため、また作業をスムーズに進めるため二つに分かれて準備！

1 屋外隊

外に出て枝や花を探し、適当な長さに切る。





- 枝や花を切るとき、枝・花、手元、ハサミの距離感がうまくつかめない場合は、スタッフがハサミの刃の部分に枝等をうまく入れる。
- 切る長さもわかりにくいので「この辺りで」と指示する。

2 屋内隊

- オアシスをその日の器に合わせてナイフで切る。
- 水に沈めて十分に水分を含ませる。



- 日によって器が違うので、器の外から合わせて見ながら大きめにカット！



- オアシスの側面を落とす。



3

アレンジの心得のあるスタッフが、芯にする花、添えにする枝・花を説明しながら生け、参加者にやってもらい、時々アドバイスや手直しをする。

材料 など

枝、花などの植物・オアシス・包装紙・リボン・
はさみ・ラッピング用の色セロハン



完成品です！







参加者の声

- お花は大好き。
- 飾れるのがいい。
- 今日の花は自分の好きな花だった。
- 黄色い花が好き。

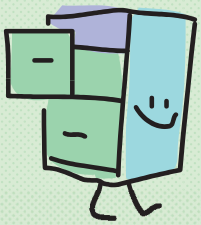


女性参加者



注意点

- 生け方を他の人と比べないよう、個性を重視した助言などで気を配る。
- 見本を必ず置いておく。その際、完成品だけでなく、作成順がわかるものがよい。
- 自分の作品がわかるよう好きな色のリボンで飾る。



整理箱作り

参加者　男性　　所要時間　2時間

ねらい

デイケアの作業用具、工作用具または作品などを収納するための箱を作る。
自分たちが使うものは、自分たちで準備することにしており、そのことでさらに達成感が感じられる。活動場所である老人保健施設から依頼があったことがきっかけであるが、依頼されたものを作成することで感謝され、喜びにつながる。

作り方



●仕様キットを見せながら、取扱説明書を読み、具体的に組み合わせ方を見せる。

1 キットを取り出し、取扱説明書で組み立て方を確認。

3 順にねじをしめていく。
●ドライバーを使う。





●ネジへのとっかかりが探しにくいので、ネジ回しをあててから渡す。

4 ねじの部分にパッチ（目隠しシール）を貼って完成。



●パッチなどが細かく取り出しにくいので、予め外して皿などの上に置いておく。

2 引き出しの取っ手などをつける。
●電動ドライバーを使う。



●ネジを締めすぎないよう、スタッフが手を添える。

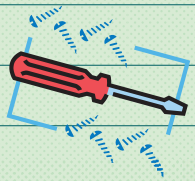
●キットが垂直に保たれていないとネジがはみ出してしまうので注意!!





材料など

カラーボックスのキット・ドライバー・電動工具



完成品です！





参加者の声



男性参加者

- なかなか難しい。
- 出来上がりは上々！
- やっとできたね。



施設職員の声

- 利用させてもらえるものを作ってくれてありがとう。
- しっかりしたものですね！
- 物品を収納するところができて片付きます！

注意点

- 電動ドライバーは、基本的に使い慣れている人が使用。
  その際も、スタッフが注意を払う。
- 板を本体にはめ込むときに、手をはさまないように注意。
- 板の表裏を間違えると、全てを取り外してやり直すことになる。



障子張り

参加者　男性　　所要時間　1時間20分

ねらい

活動場所である老人保健施設内の破れた障子の張り替え。
完成したものが皆の目に触れ、達成感や充足感が感じられる。活動場所である老人保健施設から依頼があったことがきっかけであるが、依頼されたものを作成することで感謝され、喜びにつながる。また、社会とのつながりも意識できる。

作り方

1 糊はがし液を塗り、破れた障子を剥がす。





- はがし液が浸透するまで少しの間待つときれいにはがれる。
- きれいにはがせないときは、割りばしの平面の部分などでこする。

2 桟をきれいに拭く。

3 障子紙を桟の寸法に合わせて切る。





- 紙がぴんと張るように、一方の紙の端を持ってもらい、障子カッターで切る。

4 桟に糊をつけ、障子紙を貼る。



- はみ出したり足りない部分がないように注意!!



5 霧吹きで紙にまんべんなく霧を吹く。

材料 など　障子紙・はがし液・障子カッター・糊・刷毛・霧吹き



参加者の声



男性参加者

- きれいにできた！
- 新しい年を迎えられる。
- 障子貼りはもう任せて！

施設職員の声

- きれいに貼ってもらってうれしいです。
  ありがとう!!!



注意点

- 障子カッターで障子紙を切るとき、長い物差しが浮いてしまうと切るのが難しいので、物差しをしっかりとおさえる。
- 本人の効き手側から切れるように、本人の立つ位置を工夫する。



メンズクッキング

参加者 男性　　**所要時間** 準備・調理などで約1時間
食事に30分～1時間

ねらい

男性はほとんどの人が家庭では料理をしないが、「食べることが好き！」ということは皆に共通している。限られた時間内で形になり、最後には「美味しかった」という満足感が得られる。台所は普段なじみがないところだけに、料理をすることが挑戦という刺激となる。

これまでに作った料理

炊き込みご飯＋お味噌汁・ぜんざい・カレーライス＋サラダ・春色ちらし寿司・おいなりさん・さつまいもトリュフ・やきそば・関東風桜餅 など

持ち帰ることができるため家族からも大好評でした！

☆一番人気のあった“関東風桜餅”☆



作り方

1. ボールに白玉粉を入れ、水を少しずつ加えながら混ぜる。
2. 薄力粉と砂糖を加える。
3. 食紅を加える。
4. ホットプレートにうすくのばして焼く。



5. きれいな面を下にしてあんこをのせる。

- 材料、調理内容はシンプルなものに。
- 季節感も時には意識。





6. 半分に折りたたみ、桜の葉でつつむ。

- 声かけをまめにして、上手にフォロー。とにかく楽しく!!!



材料 など

白玉粉・薄力粉・水・食紅・こしあん・塩・塩漬けの桜の葉と花びら

これまでに作ったものです



お土産用にこうやって
持ち帰りました







参加者の声



男性参加者

- 普段やらないけど、なかなかできるもんだなぁ。
- おいしかった!!!
- やれば料理もできるよ。

スタッフの声

- 家でも手伝えるよね。

家族の声

- 家ではなにもやらないのに今度手伝ってもらおうかな。
- 意外だわね。お父さん、家でも作って!!!

注意点



- 衛生面への注意。
- 包丁や火を使用する際はけがに注意。
- なるべく火を使わずに、電子レンジ、ホットプレート、炊飯器などの電化製品で代用。
- 包丁のかわりにはさみを使うことでスムーズに。



足湯を楽しもう

参加者　男性・女性　　所要時間　徒歩20分・入浴30分

ねらい

近くに足湯があり安価に利用できる。
環境をかえることにより刺激を与えることができ、デイケアに変化を持たせることができる。また、血行もよくなる。







●他のお客さんに迷惑がかからないように注意！



●服が濡れないように注意！





●風邪をひかないように注意！

必要なもの　入浴料金100円・タオル・バスタオル



参加者の声



男性参加者

【足湯中】
- すごく気持ちよい。温まる。

【足湯後】
- ぽかぽかするね！



女性参加者

スタッフの声

【足湯中】
- 気持ちよい。落ち着くね。

【足湯後】
- 体全体がぽかぽか温まる感じ。

プラスアルファ
- ＋αは、散歩と帰り道のソフトクリーム。

注意点

- 初めて入るとき、不安が強い利用者がいた。

クリスマスパーティ
花見・遠出 など

交流イベント

参加者　男性・女性・それぞれのご家族

所要時間　3時間程度

ねらい

- 季節の行事を催すことで、季節感を感じることができる。
- 普段から（季節の）オブジェなどの制作を協力し合って進めているので、男女合同で行事に参加する際、情報交換などができる。
- ご家族も一緒に参加できるイベントなので、ご家族の意見交換もできる。
- ご家族にも日頃の活動の様子や、ご本人と他者との関わりの状況や、会話なども知ってもらえる。
- 花見や遠出など、いつもと違った場所での活動は気分転換になる。
- クリスマスパーティなどは分担で料理を作るので、サブメニューが沢山できて、自分たちが料理したという充実感が生まれる。

クリスマスパーティ

1. スタッフの受け持ちの料理を決めておく
2. 料理の内容により、得意なところを担当してもらう
3. 料理は事前に自分たちで作っておいた牛乳パックトレイなどに分ける
4. みんなで楽しく戯く



社会参加に向けて



ねらい

- 若年性デイケアの取り組みを知ってもらうことにより、社会に若年性認知症の方の可能な活動や、思いを伝えることができる。
- 取り組みを知った他の機関から声かけがあり、活動場所などの輪が広がる。

留意点

- 調理については衛生面と調理器具使用時の安全面
- 外出については交通の安全面

花見・遠出

1 現地集合

2 自己紹介をしたり、事前にスタッフが準備したレクレーションなどをする。

3 昼食をいただきながら交流する。

4 思い思いの散策などをし、交流、会話、自然を楽しむ。







参加内容



- **老人保健施設の夏祭りに参加**
  手作り小物の店を出す。小物はいつものデイケアの中で、少しずつ作成する。
- **生活支援センターに季節のオブジェをディスプレイする**
  七夕の季節などに笹の葉型の短冊を用意して、書いてもらうよう観覧者参加型に設定。
- **障害者作品展に出品**
  自分たちが作成したオブジェなどを市の障害者作品展に出品。

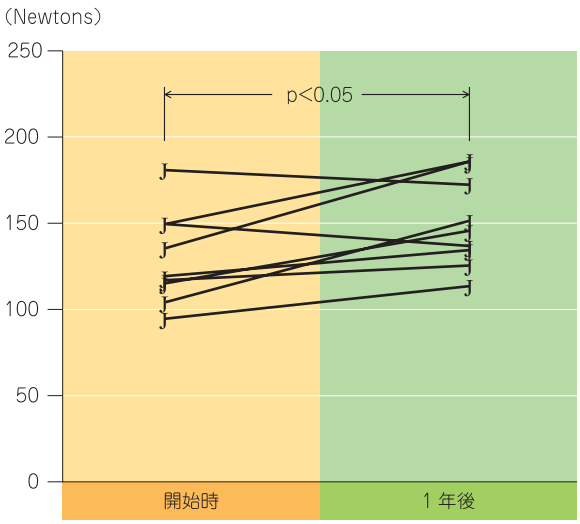
デイケアの効果

効果測定のタイミングと評価内容

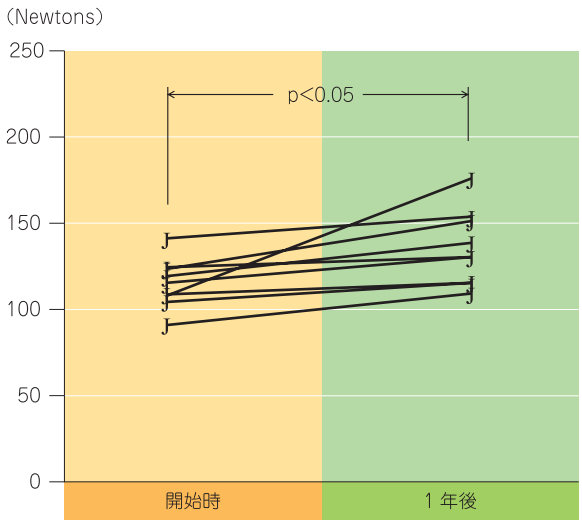
デイケアを始める前と、始めてからは３カ月ごとに、認知機能や、気分、意欲、日常生活動作能力、運動機能などを指標として、利用者さんの変化を見てきました。また、家族の介護負担感についても調べました。

評価結果

- **認知機能**
  開始１年後にも、開始前と変わらず、改善させることはできませんでしたが、少なくとも維持することはできました。
- **心理評価**
  気分、やる気などの変化は見られませんでした。
- **身体機能**
  握力には変化が見られませんでしたが、下肢の筋力は増強しました。身体活動のプログラムも多く、週１回デイケアに来るということで外出の機会が増えたためと考えています。



大腿四頭筋筋力の変化



腸腰筋筋力の変化

- **家族の介護負担**
  家族が参加するプログラムを用意したり、作品を家庭に持ち帰ったりと、それなりに喜んでいただきましたが、家族の介護負担感は、評価では変化が見られませんでした。週１回、半日だけという制約も影響していたかもしれません。

おわりに



いかがでしたか？
わたしたちがこれまでにやってきた
デイケアプログラムの一部です。

参加者のいきいきした様子が
伝わったでしょうか？

今後の若年性認知症デイケアのために
少しでも参考になれば幸いです。

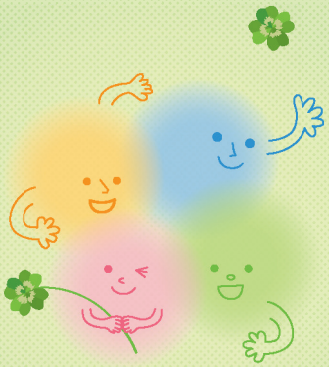


若年性認知症デイケア実践的プログラムの紹介 / ほのぼのデイケア

▶編集　社会福祉法人 仁至会　認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0031 愛知県大府市半月町三丁目294番地　TEL：0562-44-5551　FAX：0562-44-5831　ホームページ：http://www.dcnet.gr.jp

▶印刷　株式会社 一誠社
〒466-0025 愛知県名古屋市昭和区下構町二丁目22番地

この冊子は平成23年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業で作成しています。



社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0031 愛知県大府市半月町三丁目294番地
TEL：0562-44-5551　FAX：0562-44-5831　ホームページ：http://www.dcnet.gr.jp

地域包括支援センターの若年性認知症に対する就労支援

主任研究者　小長谷 陽子 （認知症介護研究・研修大府センター研究部）

Ⅰ．相談業務に役立つ資料の送付とその有用性に関する調査

研究目的

地域包括支援センターにおける若年性認知症の相談業務については、平成 22 年度の本事業において調査し、報告したところであるが、約半数の事業所で相談の経験があった。相談内容は、診断後の生活を支えるための制度を教えてほしい、若年性認知症に合った社会資源・サービスについてなどの情報を求めるものが半数以上であった。しかし、地域包括支援センター職員の若年性認知症に関する知識の不足や、若年性認知症の社会への啓発の必要性を訴える意見が多数寄せられた。そこで、大府センターで作成した、「若年性認知症ってなんだろう」、「認知症ってなんだろう」のパンフレットと「本人・家族のための若年性認知症サポートブック」の「Q&A」（コールセンターに寄せられた相談と対応から抜粋）および参考資料編の抜き刷りを各 1 部ずつ送付し、相談業務に活用してもらうとともに、これらに対する有用性等に関する意見を収集した。

研究方法と対象

平成 22 年度に全国の地域包括支援センターに対して行った、「相談業務における若年性認知症相談の実態」調査に回答を寄せた 2,442 か所に対し、「若年性認知症ってなんだろう」、「認知症ってなんだろう」のパンフレットと「本人・家族のための若年性認知症サポートブック」の抜き刷り、各 1 部と調査票を送付し、回答を求めた。

資料に関する回答は、2,442 か所中、1,417 か所（58.0%）から回答があった。

研究結果と考察

「若年性認知症ってなんだろう」のパンフレットに関して：

内容の分かりやすさでは、よくわかる（67.8%）、まあまあわかる（31.6%）とほとんどの事業所で分かりやすいとの評価を得た。若年性認知症の理解に役立つかとの問いには、とても役立つ（53.4%）、まあまあ役立つ（45.6%）であ

った。相談業務に有用かとの問いには、とても有用である（38.6%）、まあまあ有用である（56.5%）であり、高い評価が得られた。

「認知症ってなんだろう」のパンフレットに関して：

内容の分かりやすさでは、よくわかる（67.7%）、まあまあわかる（31.5%）とほとんどの事業所で分かりやすいとの評価を得た。認知症の理解に役立つかとの問いには、とても役立つ（55.6%）、まあまあ役立つ（43.7%）であった。相談業務に有用かとの問いには、とても有用である（43.4%）、まあまあ有用である（53.1%）であり、高い評価が得られた。

「本人・家族のための若年性認知症サポートブック」の抜き刷りに関して：

「Q&A」の内容の分かりやすさでは、よくわかる（52.2%）、まあまあわかる（44.4%）とほとんどの事業所で分かりやすいとの評価を得た。相談業務に有用かとの問いには、とても有用である（43.4%）、まあまあ有用である（53.1%）であった。内容が若年性認知症の相談に対応するために十分網羅されているかとの問いには、十分である（21.8%）、まあまあ十分である（67.7%）であった。参考資料が相談業務に役立つかとの問いには、とても役に立つ（32.2%）、まあまあ役に立つ（59.5%）であった。情報が若年性認知症の相談に対応するために十分網羅されているかとの問いには、十分である（23.8%）、まあまあ十分である（66.3%）であった。

「Q&A」や情報に関して、若年性認知症の相談業務に対応するために必要な項目としては、「家族支援」が最も多く 48.4%、次いで「本人・家族の意識、受け入れ方」（44.7%）、「社会資源について」（41.6%）、就労支援・生活支援（40.9%）、「医療機関との連携」（39.0%）などであった。

全体的には、分かりやすいという意見が多かった一方で、文字が多くて読みにくいとか、最新の情報も掲載してほしいといった要望もあった。

Ⅱ．若年性認知症就労支援の実態

研究目的

平成 23 年度の地域包括支援センターへの調査において、若年性認知症の就労支援、障害福祉サービスの作業所等へのつなぎの経験の有無について質問したところ、66 か所から「あり」の回答を得た。今年度は、これらの事業所に対して、就労支援の詳しい内容を調査することとした。

研究方法と対象

平成 23 年度のアンケートで、若年性認知症の就労支援、福祉サービスの作業所等へのつなぎの経験の有無を問うたところ、66 か所から経験ありの回答を得た。今年度は、大府センターで作成した上記資料（「若年性認知症ってなんだろう」、「認知症ってなんだろう」のパンフレットと「本人・家族のための若年性認知症サポートブック」の「Q&A」（コールセンターに寄せられた相談と対応から抜粋）および参考資料編の抜き刷り）を配付し、活用してもらうと同時に、再度同様の質問をしたところ、新たに、10 件の回答を得た。これら 76 か所に対して、「若年性認知症の就労支援に関する二次調査」を行った。

76 か所中、4 か所からは該当者なしの回答があり、40 か所からは質問票に対する回答があった（回収率 55.6%）。40 か所の該当者は計 46 人であり、以下の結果はこの 46 人に関するものである。

研究結果

46 人中男性は 32 人、女性は 14 人であった。

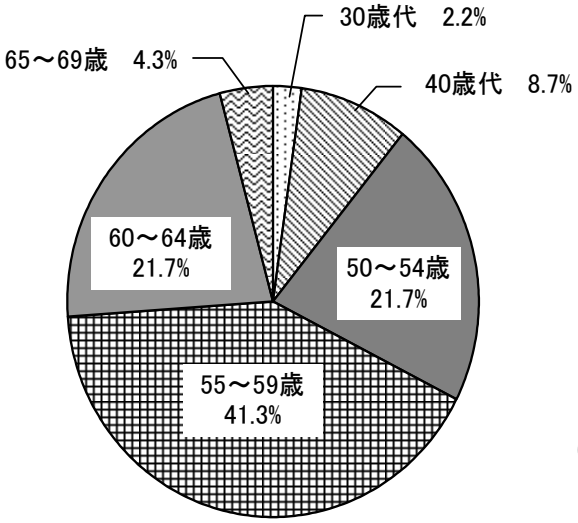


図 1. 相談時の年齢（N=46）

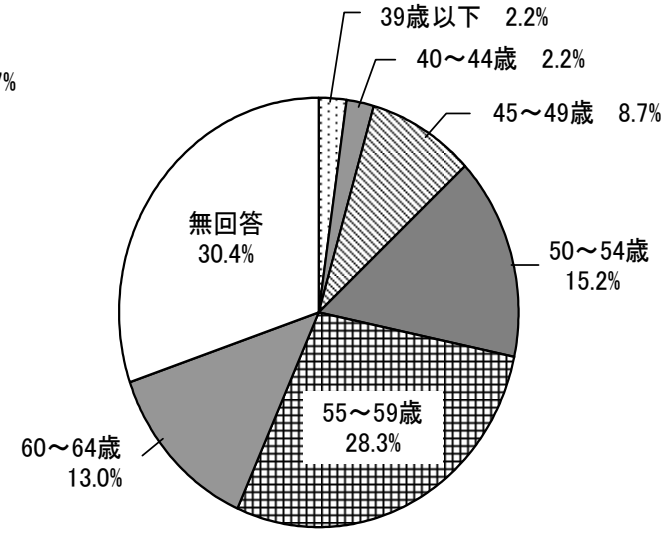


図 2. 発症時の年齢（N=46）

相談対応時の年齢は、55~59 歳が最も多く 19 人（41.3%）、次いで 50~54 歳で 10 人（21.7%）であった（図 1.）。発症年齢は、14 人で不明であったが、記載があった中では 55~59 歳が最も多く 13 人（28.3%）、次いで 50~54 歳 7 人（15.2%）であった（図 2.）。

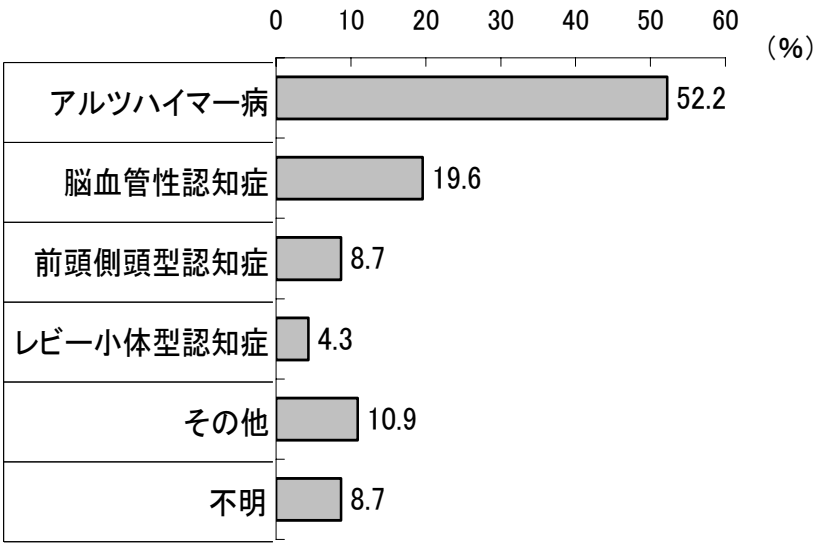


図 3. 原因疾患の内訳（N=46）

診断名は不明が 4 人であり、アルツハイマー病が 24 人（52.2%）と最も多く、次いで脳血管性認知症 9 人（19.6%）であった（図 3.）。

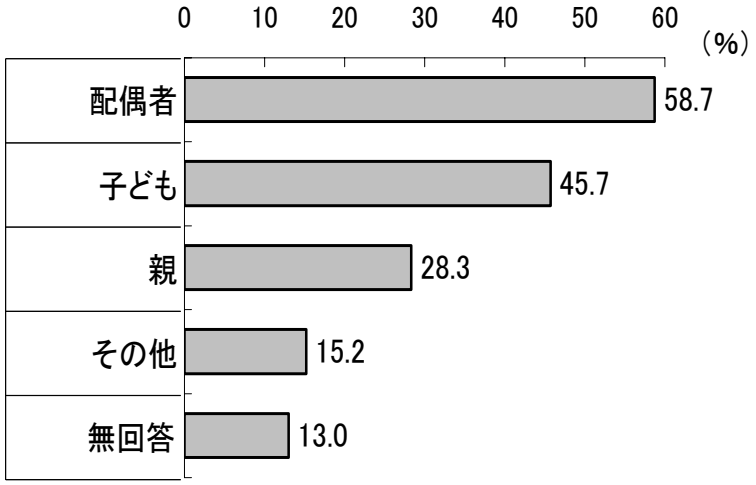


図 4. 同居家族の内訳（N=46）

対象者のうち 40 人（87.0%）には同居家族がおり、配偶者 27 人（58.7%）、子ども 21 人（45.7%）、親 13 人（28.3%）などであり（図 4.）、同居家族がない人は 6 人（13.0%）であった。子どもの人数は 1 人が最も多く 10 人（47.6%）、次いで 2 人が 6 人（28.6%）であった。

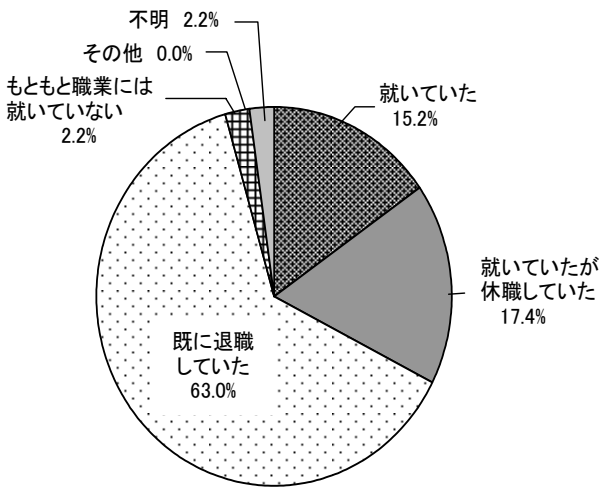


図 5. 相談時の就業状況（N=46）

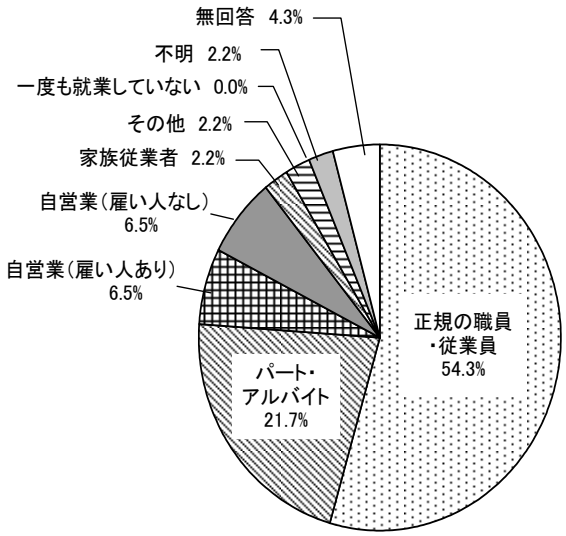


図 6. 相談時または以前に就いていた職業（N=46）

相談時の対象者の就労状態は、既に退職していた、が最も多く 29 人（63.0%）、次いで就いていたが休職していたが 8 人（17.4%）であり、就労していたのはわずかに 7 人（15.2%）であった（図 5.）。相談時あるいは既に辞めていた場合は以前の職業の種類では、正規の職員・従業員（会社・団体・官公庁など）が最も多く、25 人（54.3%）、次いでパート・アルバイト（契約・嘱託を含む）が 10 人（21.7%）であった（図 6.）。

介護保険の認定は 32 人（69.6%）が受けており、要介護度は、要介護 1 が最も多く 10 人（21.7%）、次いで要支援 25 人（10.9%）であり、介護申請していない人は 9 人（19.6%）であった。

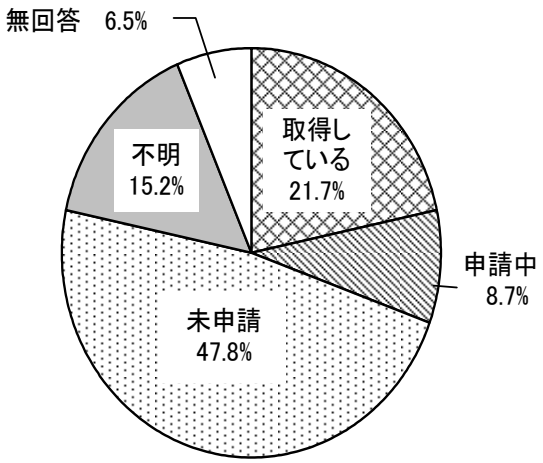


図 7. 精神障害者保健福祉
手帳の取得状況（N=46）

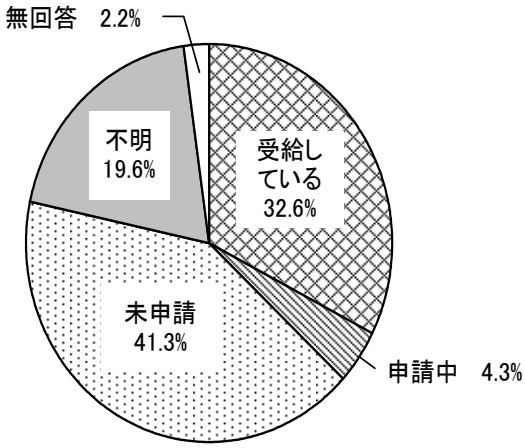


図 8. 障害年金の受給状況
（N=46）

精神障害者保健福祉手帳は 10 人（21.7%）が取得しており、2 級が最も多く 5 人（10.9%）、次いで 1 級が 3 人（6.5%）であった。申請中は 4 人（8.7%）、未申請は 22 人（47.8%）であった（図 7.）。

また、障害年金は 15 人（32.6%）が受給しており、障害厚生年金が 8 人（17.4%）と最も多く、次いで障害基礎年金 3 人（6.5%）であった。申請中は 2 人（4.3%）、未申請は 19 人（41.3%）であった（図 8.）。

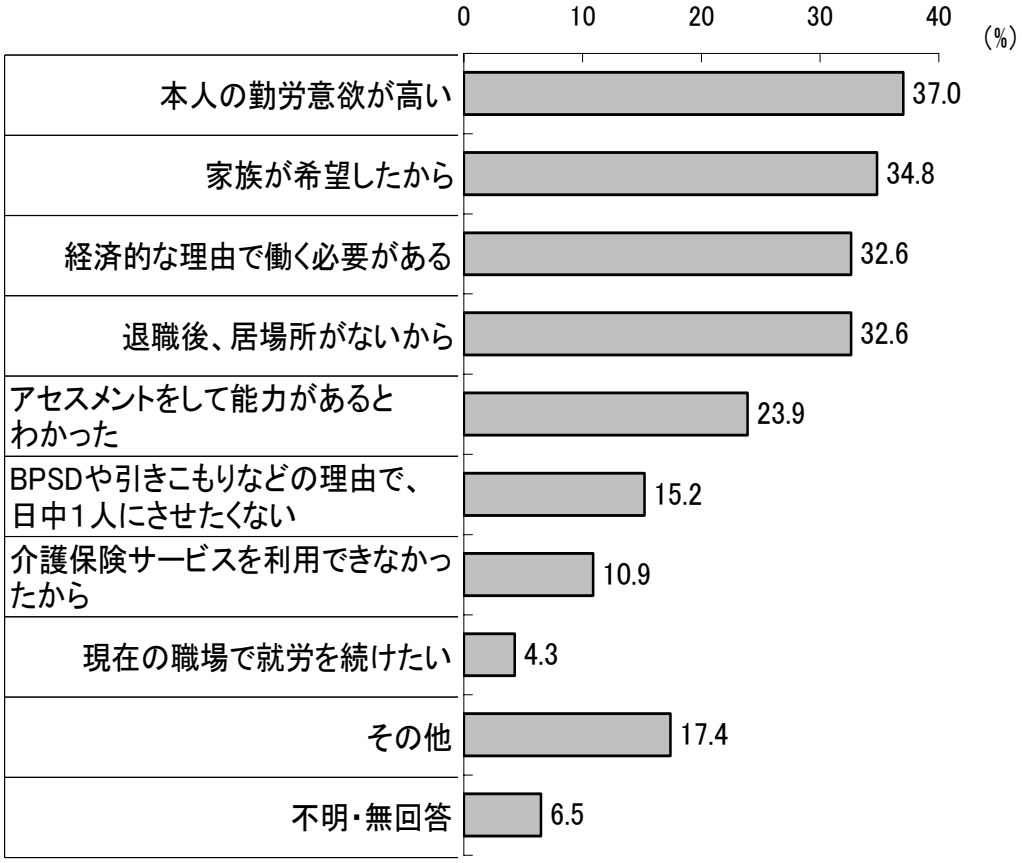


図 9. 就労支援を相談した理由（N=46）

対象者が就労支援の相談をした理由では、本人の勤労意欲が高い、が最も多く 17 人（37.0%）、次いで家族が希望したから　16 人（34.8%）、経済的な理由で働く必要がある　15 人（32.6%）、 退職後、居場所がないから　15 人（32.6%）などであった（図 9.）。

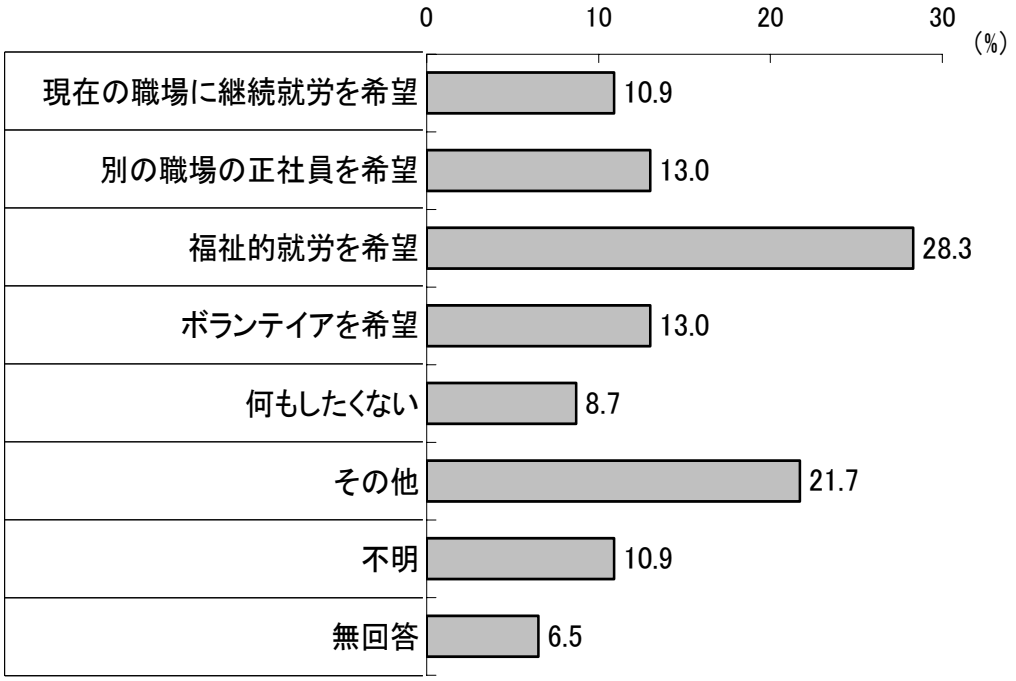


図 10. 就労に対する相談者のニーズや意欲

対象者の就労に対するニーズや意欲については、福祉的就労を希望する、が最も多く 13 人（28.3%）、次いでその他（家にじっとしていたくない、自分でできることがしたいなど）10 人（21.7%）であり、現在の職場に継続就労を希望する人は 5 人（10.9%）であった（図 10.）。

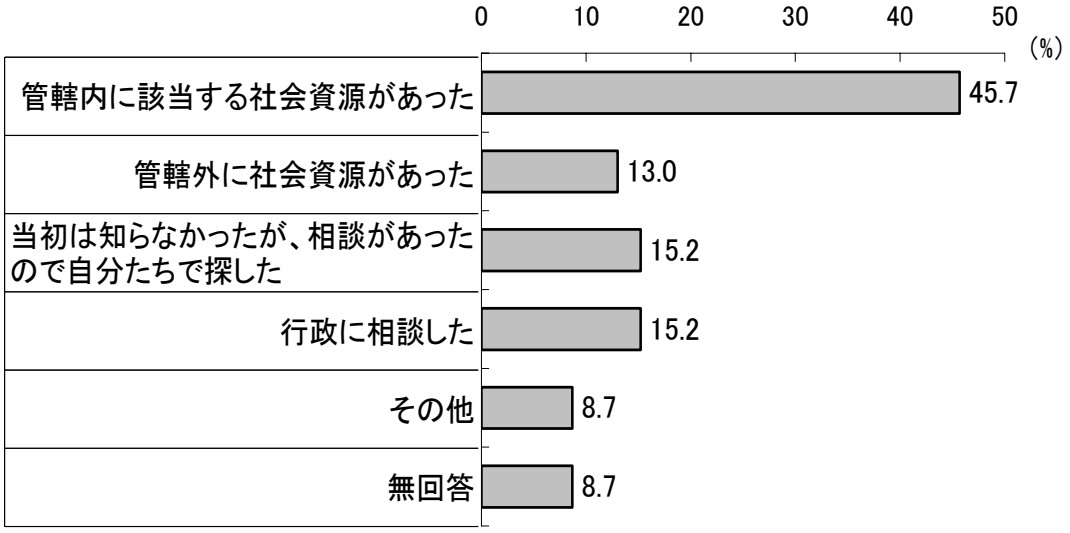


図 11. 就労支援のためのサービスの情報の有無（N=46）

地域包括支援センターにおいて、若年性認知症の就労支援のサービス（制度、機関）に関する情報の有無については、45.7%で管轄内に該当する社会資源があったと回答し、15.2%で、当初は知らなかったが、相談を受けて自分たちで探した、あるいは行政に相談した、とそれぞれ回答した（図 11.）。

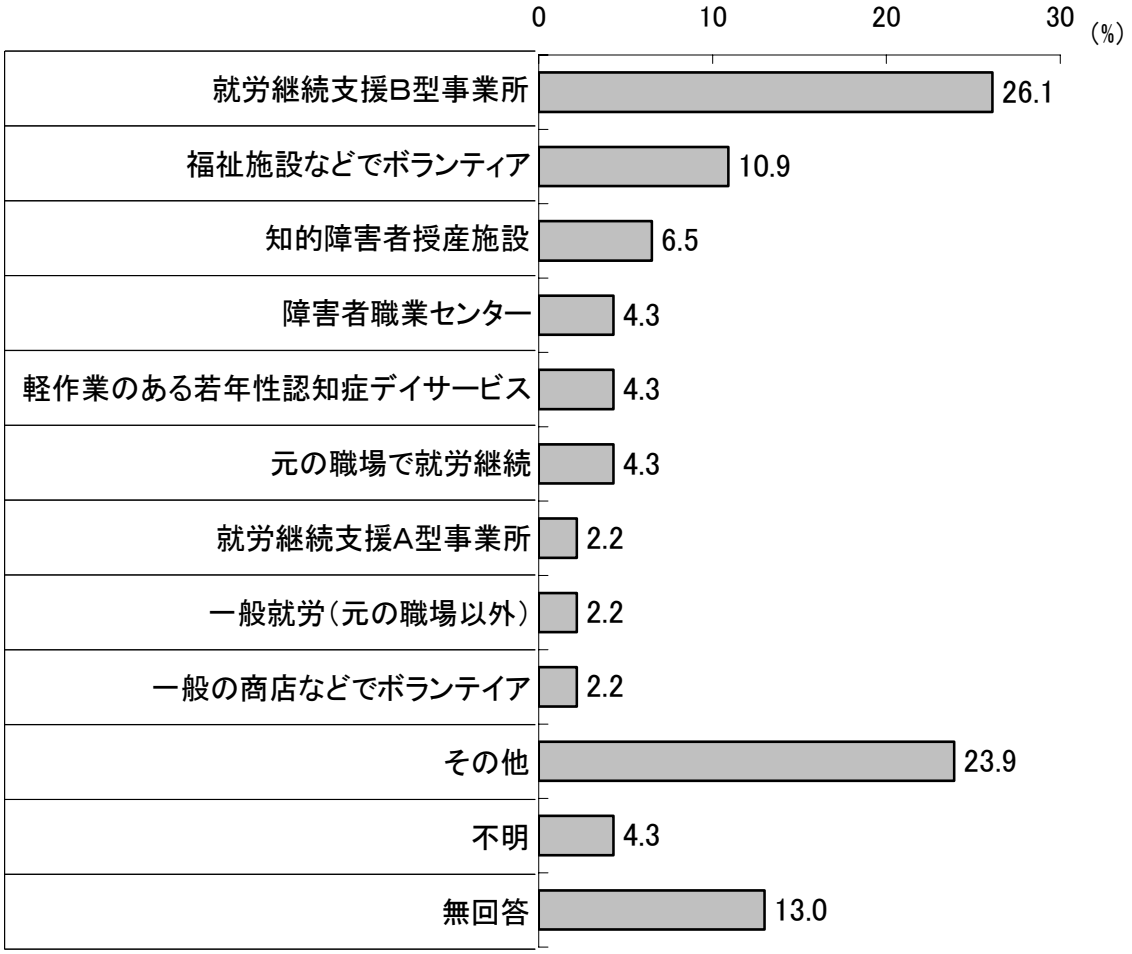


図 12. 実際につないだ就労支援サービスの内訳（N=46）

実際にどのような就労支援サービスにつないだのかという質問に対しては、就労継続支援 B 型事業所が最も多く 12 人（26.1%）、次いで福祉施設などでボランティア 5 人（10.9%）、その他 11 人（23.9%）であった。中には、元の職場以外での一般就労や、一般の商店でボランティアという回答も各 1 人みられた。また、NPO 法人のソーシャルファームにつないだ事例もみられた（図 12.）。

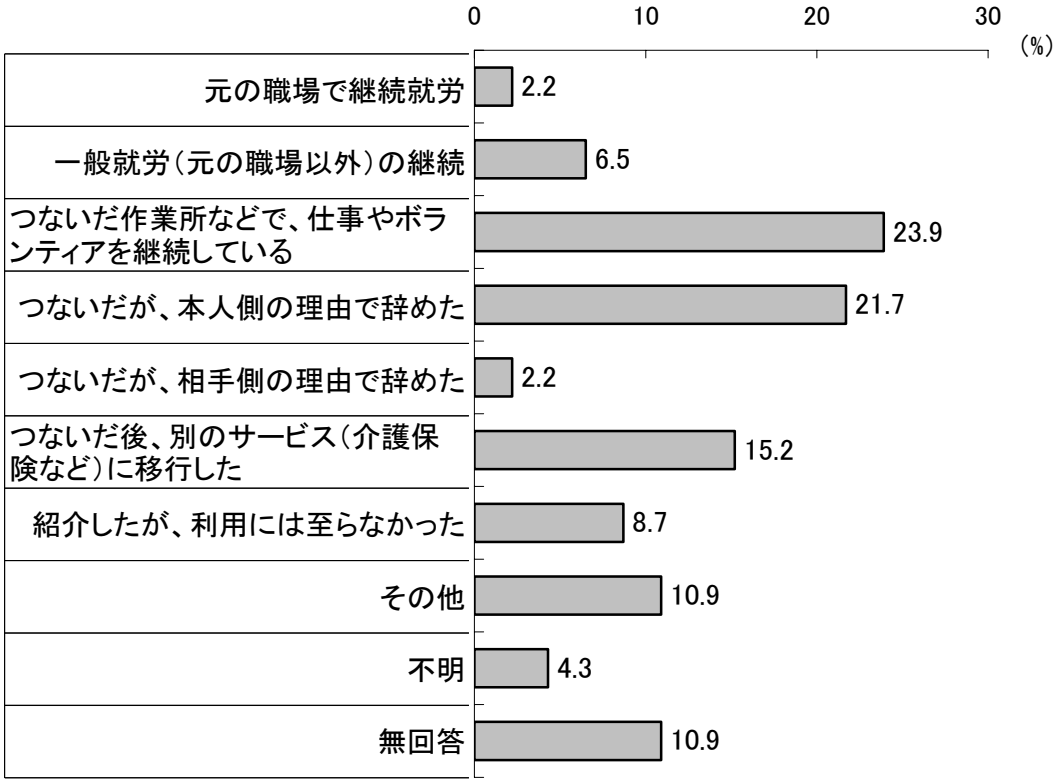


図 13. 相談対応後の対象者の状況 (N=46)

相談を受けた対象者の現在の状況は、つないだ作業所で仕事やボランティアをしている　11 人（23.9%）、つないだが本人側の理由で辞めた（理由：身体的症状のため、通勤が困難、合併症などが発症）　10 人（21.7%）、つないだ後、別のサービス（介護保険など）に移行　7 人（15.2%）などであった。つないだが相手側の理由（人手が取られる）で辞めた　1 人、紹介したが利用に至らなかった（理由：GH 入所となり、そこでの生活に満足、年金がもらえなくなると主張したため）　4 人であった（図 13.）。

具体的な相談の背景や、相談内容についての個別の回答は＜参考資料＞として、巻末に貼付した。

考察

全国の地域包括支援センターでは、若年性認知症の相談業務の経験は約半数の事業所で行われていたが、就労支援を実際に行っていたのはごくわずかであった。今回寄せられたのはその貴重な事例である。

46 人中、男性は女性の 2 倍以上であり、若年性認知症は男性に多いことを反映しているとともに、就労意欲や必要性が男性により強いことが伺われる。発症年齢、相談対応時の年齢は、いずれも 55~59 歳が最も多く、現役世代で発症する若年性認知症の特徴である。対象者のうち 9 割近くには同居家族がおり、約半数には、子ども、約 3 割は親であった。一方で、同居家族がない人も 13.0%みられた。同様の年代であっても家族形態は様々であることがわかった。

相談時の対象者の就労状態は、既に退職していた人が 6 割以上と最も多く、就労していたのはわずかに 15.2%であり、発病してからも仕事を続けることが困難であることをうかがわせる。これらの人が就いていた職業では、正規の職員・従業員（会社・団体・官公庁など）が最も多く、5 割以上であった。また、パート・アルバイトも 2 割以上であり、正規職員が多いことが明らかとなった。

介護保険の認定は 7 割近くが受けており、要介護度は、要介護 1 が最も多く 21.7%、次いで要支援 2　10.9%と比較的軽度の人が多かった。一方で介護申請していない人が 2 割くらいみられた。

精神障害者保健福祉手帳は約 2 割が取得しており、2 級が最も多く、次いで 1 級であった。また、障害年金は約 3 割が受給しており、障害厚生年金が最も多く、次いで障害基礎年金であった。これらの制度の利用状況はまだ低く、介護保険の利用状況と合わせて考えると、診断間もなく、まだ情報が行きとどいていない、症状が軽く、本人や家族のニーズが低い、サービス・制度の利用方法がわからない、などの理由が考えられる。

対象者が就労支援の相談をした理由では、本人の勤労意欲が高い、家族が希望したからという理由が多かったが、一方で経済的な理由で働く必要がある、退職後、居場所がない、なども挙げられ、就労したい理由はさまざまであった。対象者の就労に対するニーズや意欲については、福祉的就労を希望する、が最も多く 13 人（28.3%）、次いでその他（家にじっとしていたくない、自分でできることがしたいなど）であり、現在の職場に継続就労を希望する人は約 1 割であった。これは地域包括支援センターに相談する段階では、既に退職している人が多く、継続就労が事実上、困難であることが考えられる。もっと早い段階、すなわち、就労中に早期対応できる体制が必要である。

若年性認知症の就労支援のサービスに関する情報については、約半数で管轄内に該当する社会資源があり、ない場合も、相談を受けて自分たちで探したり、

行政に相談した利と工夫していることがわかった。

実際につないだ就労支援サービスは、就労継続支援 B 型事業所、福祉施設などでボランティアなどが多く、中には、元の職場以外での一般就労や、一般の商店でボランティアという回答もみられ、それぞれの対象者のニーズや能力に合わせた様々な就労形態がみられた。

このようにしてつないだ対象者は、現在もその作業所で仕事やボランティアをしている人が約 4 分の 1 みられる一方で、本人側の理由で辞めたり、つないだ後、別のサービス（介護保険など）に移行する人もみられ、症状が進行する認知症ならではの経過と考えられた。

結論

地域包括支援センターで実際に若年性認知症の就労支援が行われた事例はまだ極めて少ない。本人の勤労意欲や作業能力と地域の資源のマッチング、疾患の進行に合わせたサービスへの移行など、認知症高齢者とは異なった視点と対応が必要である。地域包括支援センターの各職種においても、さらに若年性認知症への理解を深め、本人・家族のニーズに応じられる、知識、情報、技量を持つ必要がある。

＜参考資料＞

① 若年性認知症の就労相談に至った背景や、相談内容、経過などの具体例
（地域包括支援センター 若年性認知症就労支援調査 自由回答）

● 相談半年前に職場を退職した。同じ場所でアルバイトをしていた。身体を動かさずともよい部署へ配置転換してもらったが、順序立てた仕事ができず、結局退職した。介護認定を受け、デイケアで作業療法を実施（計算練習中心）した。半年後、精神障害者地域生活支援センターでの相談を経て、同就労支援サポートを受けた。その間、本人はハローワークを通じ、一般就労の道を独自に何度か探したが、面接の段階で不採用となった。平成 20 年 11 月にアルバイト（地域包括より声かけしたが、形式的には一般就労）を始めた。平成 22 年 3 月には介護認定が非該当となった。現在も就労中である。仕事の内容は駐車場のゴミ拾い、車の台数を数え、本部に電話で定期的に報告するなどの軽作業（車の誘導はしない）である。

● 本心から働きたいとは思っておらず、生きがいを求めての就労希望であり、できれば働きたいという程度であった。目標が高く、自分の能力の現状を理解するのが難しく、ボランティアで元の職場に通ったが満足せず、自分のやりたいことと違うとすぐ断り、うまくつながらなかった。障害者の就労支援サービスにつなぐ方がよいと思ったが、それに対しては本人が拒否した。片麻痺があることにより、喪失の現実を知ることになってしまい、今は働きたいと言わず、スイミングスクールに通っている。

● 平成 22 年 7 月発症の脳出血の患者で、10 月に退院するにあたり相談があった。介護認定は要支援 1 であった。家族や病院等と 18 回くらいやりとりして調整を行った。サービス担当者会議の提案で訪問リハビリ（言語、高次脳機能について指導）を実施した。就労移行支援事業により、パン作りの作業所に通うことになり、本人もやりがいを感じている。平成 23 年 5 月より一般の会社に臨時社員として雇われ、現在に至る。

● 介護保険申請後、家族より包括支援センターに連絡があった。その年の 3 月まで就労していたが、相談時は引きこもり状態となっていた。家族は外に出て活動を続けることで、認知症の進行をゆるやかにしたいという意向を持っていた。介護保険サービスには本人が抵抗を示し、該当するサービスもなく、受入れ先がなかった。NPO 法人のソーシャルファーム（障害者就労）に相談した

ところ、受け入れが決まり、本人も就労ならと意欲を示した。もともと教員で理科教育に力を入れていたため、ソーシャルファームの仕事の内容（畑仕事）ともマッチしており、本人の意欲を引き出すことができた。送迎を含め家族の協力も得られた。その後、同法人のデイサービス（介護保険）にも通うことができるようになり、就労が困難になるとともにデイサービス利用に移行した。

● 小規模福祉作業所を紹介した。本人は就労の意欲が強く、ハローワークにも行っていたが、病状や認知機能障害のレベルからも一般就労は難しかった。作業所に行くようになったが、周りの方たちと合わせることができず、辞めてしまった。

● リハビリ病院の退院に向けての相談として関わり始める。当初、介護保険のデイサービスを利用する予定であったが、年齢的にそぐわないことを懸念していた。就労継続支援Ｂ型事業所を見学し、本人が意欲を見せたため、障害担当ケースワーカーに連絡した。片麻痺があり、身体障害者手帳を取得している。介護保険デイサービスで退院後の生活リズムを整えてから、Ｂ型事業所の体験実習を開始した。その結果、利用可能と判断され、通所に至った。相談回数は11回（内訳：電話相談：5、訪問：2、来所：2、カンファレンス：2）であった。

● 本事例は就労につないだケースではなく、就労支援困難ケースとして就労支援センターより地域包括支援センターに相談されたケースである。相談を受けた平成22年の2年前に、意味性認知症と診断されていたが、当時勤務していた工場でそのまま勤務を継続していた。勤務中も物忘れなど問題はあったが、周囲の理解があり、業務内容が単純作業だったこともあり、勤務を続けられたとのことである。その後、平成21年2月に会社が倒産したため、就労支援開始となった。待ち合わせなどができず、実務は困難という適性テストの結果や、失業保険終了のタイミングもあり、地域包括支援センターへ相談があった。福祉的就労も検討したが、本人にはさほど強い希望もなく、経済的な負担も考慮して、介護保険サービス利用へ移行した。介護保険下の一般型デイサービスにて残存能力を維持できるよう支援している。

● 初回相談時（平成20年）、長女が末期がんの闘病中であり、要支援認定の母親の生活支援をしていた。母親、本人、長女はそれぞれ独居であった。本人は認知症の診断を受け、服薬治療しながら勤務していた。身内が経営する会社のため、仕事内容を変更しながら勤務を継続することができた。母親に対して、介護保険、精神障害者手帳など、今後の生活のための情報提供を行った。長女

の死去後（平成 21 年)、本人は仕事上でのミスが多くなり、休職から退職となって、母親と同居することとなった。母親以外との人間関係がなく、一日中自宅にこもっている。母親への支援関係者もなかなか面会できず、本人の意向確認ができずにいる。時々感情が高ぶり、物を壊したりするという母親からの訴えがあるが、本人への具体的な支援となると、母親自身が「認めたくない」と制度利用を拒否する。現在、母親と本人とで何とか二人の生活が成り立っている状態であるが、母親も高齢のため、本人の今後の生活に向けて支援していきたいが､「何もしなくてよい」､「家族の問題だから」と関われずにいる。母親が、将来、本人の後見的な役割を担ってもらえるよう親戚に依頼している。

● 他県に住む妹より、姉の言動がおかしいと行政に相談が入り、同行訪問をして支援をしました。高齢の母親と二人の生活が困難になり、母親の介護認定から始めて、ヘルパーが家に入ってサービスが始まりました。しかしすぐに母親が脳梗塞になり入院したため、本人一人での生活が困難になり、妹の家に同居することになりました。雇い主が理解のある方で、「長年の付き合いだから」と言うことで仕事を継続させてくれています。

● 平成 19 年 6 月、仕事上の問題が何度もあり、職場の上司から受診をすすめられて入院し、アルツハイマー病と診断された。入院中に息子に退職の話があった。本人も忘れてしまうという自覚があったので退職した。在宅に向けて、本人には仕事をしなければという思いがあり、就労継続支援Ｂ型事業所を見学したところ、仕事内容が気に入って、工場では指導者という立場で就労した。傷病手当金とわずかな労働賃金とで生活費をまかなった。週 5 日工場に行き（送迎あり）、介護保険によるホームヘルパーが入って、いっしょに調理をすることになった。平成 21 年 4 月、工場で物忘れが多くなってきたこと、細かい仕事ができなくなってきたという情報が寄せられた。平成 21 年 11 月下旬、土日には工場が休みのため、することがないことや、一人暮らしの寂しさからお酒に頼りだした。もともと好きだったお酒を平成 20 年頃より飲み始めていたが、飲みすぎて便失禁し、血液検査でも貧血、アルコールによる肝機能の低下を指摘された。グラマリールを処方され、お酒は一合だけと約束し、少し抑えていたが、次第にお酒の量が守れなくなってきたので、入院し、治療することになった。怒りっぽくなり、感情の抑制が利かず、時には暴力もみられた。12 月上旬に退院したが､その翌日､泥酔状態で頭部を打って血を流している状態で発見され、再び入院した。12 月中旬、病棟カンファランスを持った（出席者：姉、息子、病棟看護師、ケアマネジャー、主治医、相談員、地域包括支援センター職員）。在宅は難しい（本人は一人暮らしであり、常時見守りが必要、どこにでも行っ

て酒を購入してしまう)、病院側も入院に限界がある（いつ勝手に外へ出て行ってしまうかわからない)。また、冬場であり、身の危険もあるので、息子が施設への入所を申し込むことになった。平成 22 年 1 月末、グループホームから、入所可能の知らせがあり、2 月入所した。

● 対象者はパートをしながら、夫と 3 人の子ども、実父母と暮らしていた。平成 13 年、糖尿病の診断を受け、その半年後、脳梗塞を発症し、左片麻痺、言語障害がみられた。内服薬、インシュリン治療を行うが、食事のコントロールは困難であった。平成 17 年 8 月末、自宅で転倒し、左大腿骨頚部骨折、左膝骨折をきたし、授産施設への通所ができなくなった。自宅にて通所サービスと訪問看護を利用していたが、隠れてお菓子を食べる、喫煙するという行動は改善されず、平成 19 年、入院となった。担当ケアマネジャーより連絡があり、入院時から地域包括支援センターが関わり始めた。理解力の低下がみられたため、頭部ＣＴを行ったところ、脳の萎縮が明らかになった。退院後、自宅療養中に、夫の失職や実父が要介護状態になるなど、環境の変化があった。本人は働きたいという気持ちが強く、就労継続支援Ｂ型事業所をすすめたが、自己負担金が必要であることにより断念した。現在は周囲のサポートを受け、できる範囲の家事をしながら生活をしている。地域包括支援センターしては担当者会議や家族内に問題を生じた時、また福祉担当者への連携などで関わりを持っていた。認知機能は徐々に低下しているが、今のところ生活に大きな支障はない。

● 勤務していた事務所を解雇され、ハローワークで紹介されて何ヶ所か勤めたが長続きせず、2～3 日から、長くて 3 ヶ月で辞めてしまったり、クビになってしまった。どこかいい就労先はないか、経済的にも大変であるという相談でした。すでに精神科を受診されていたが、病名は本人に告知されていない（現在も同じ)。自立支援医療、福祉医療、ハローワーク障害担当者などに紹介した。その後作業所へ通所した。2 ヶ月後から包括支援センターも含めてサポートしている。障害年金、オムツ券なども受け、毎日作業所へ通所している。2 年後、排泄の失敗が増え、休日に子ども達と過ごすことが、妻、子ども達のストレスとなり、介護保険の認定を申請し、週末にショートステイを利用するようになる。現在も平日は作業所に通い、午後 4～6 時には障害者のタイムケアを利用し、妻が勤め帰りに迎えに行っている。週末はショートステイを利用している。

● 平成 21 年 8 月、福祉施設に勤める（当時、休職中）お母様（看護師）のことで、子どもさんから相談があった。前日まで勤務していたが、物忘れなど様子に変化あり、病院を受診した結果、アルツハイマー病と診断された。本人に

伝えたが受容できなかった。うつ病もあり、他院にも受診中であった。家族としては短時間でも就業してほしいと思っており、本人も職場復帰を希望している。医師は働けるなら働いてもいいと言っている。もともと飲酒の習慣があったが、休職してからは、昼間から飲むようになった。再び役割を持たせたいという家族の希望があった。休職中の職場で、復帰などについて話し合いを行う（子ども、職員、地域包括職員が出席）。看護師としての仕事は困難であり、元の職場では本人が同じ仕事をしようとすると無理が生じ、事故につながる可能性があるため、職種を替え系列の施設で働けるよう支援することになった。本人に面談し、了解が得られ、就労することになったが、1 か月で退職した。平成 22 年 3 月、子どもさんから要介護認定を申請したいという希望があった。訪問調査に立会い、居宅介護支援事業所を探す支援を行った。

● 平成 20 年 12 月 16 日、市の福祉課より若年性認知症の疑いの男性がいると相談があった。妻とは離婚していたため、次女と面会し、認知症に関する助言（受診、介護保険申請など）を行った。次女は姉と相談し、必要なら連絡するとの返事であった。平成 21 年 6 月 26 日、叔母から相談があった。内容は、2 年ほど前から仕事ができなくなり、収入がないので保険料、固定資産税が未納となっている、一人暮らしで服薬ができておらず、食事の内容は不明であることであった。その後、養父と同居することになった。平成 22 年 3 月 12 日、初診から 1 年半経過し、障害年金申請が可能となったため、叔母に同行し市役所で申請を行った。デイサービスを利用することとなり、週 2 回の利用を開始した。本人の反応は「ぬり絵は頭の悪い人がすることでやりたくない、なぜ通わなければならないのか」と通所に消極的であった。屋外でのイチゴ狩りなどは喜んでいた。「認知症研修会」の講師より、若年性認知症に対する支援について、若年であるので何か仕事（体力を使うこと）をさせることと、デイサービス、ショートステイを利用していくこととう助言をもらった。「障害者自立支援センター」と連携し、就労できる施設について、施設を訪問して本人を紹介したり、利用方法について相談したりした。平成 23 年 1 月 18 日、成年後見人制度の利用をすすめていく。平成 23 年 3 月 18 日、グループホームに入所となった。入所後、施設で役割を与えられて生活しているとの情報を得たので、就労支援は延期とした。

● 平成 22 年 4 月末、民生委員から、「精神病の人がいて、奥様が困っている」と相談あり。面談したところ若年性認知症であることが判明した。近隣とのトラブルもあり、介護保険の申請を行い、居場所づくりのために「絆」での就労支援をすすめたが、本人に働く意欲がなく断念した。1 か月に数回来所し、話

をするのが日課になっていた。6 月末　近隣の人が警察を呼ぶ騒ぎとなる。お金のこともあり、介護保険を利用していなかったが、精神的安定を目指し、デイサービスの利用を開始する。初めはリハビリ専門のデイケアに行ったが、便失禁をきっかけに認知症の対応が得意なデイサービスに替わり、何とか続いている（週 1 回～）。平成 23 年 5 月、地域包括支援センターに来所されなくなった。週 2 回のデイサービスと新薬が合ったようだと妻から聞いた。

●　平成 22 年 1 月、妻（56 歳）が相談に来た。夫（59 歳）と夫婦二人暮らしであり、長男 34 歳、長女 31 歳は別居している。夫は 55 歳頃から認知症状が出現し、物忘れ等のため支障が出ていると会社から指摘された。受診の結果、アルツハイマー病と診断された。会社を退職し、現在、妻が働き、夫も一緒に運送会社でベルトコンベアーへ荷物を移す軽作業に従事していた。会社も認知症のことを理解して雇用してくれていた。3 ヶ月ごとに受診し、アリセプトと抑肝散を服用中である。自分の身の回りのことや車の運転もしているが、今後のことが不安とのことであった。“認知症家族の会”の紹介や、介護保険制度でも 2 号に当てはまるのでサービス利用できることを説明した。また市の高齢介護課に相談し、精神障害者制度（手帳、年金）の活用も可能であること、障害者作業所の利用なども提案した。3 月に運送会社が移転したために勤務できなくなったが、妻が他所で、知り合いのケアマネジャーにも相談しており、介護保険でデイサービスを週 6 日利用している。本人も仕事に来ているという思いで利用され、生活リズムもついて落ち着いている。

●　中学校卒業後、担任の先生の紹介で、市内の事業所に就職し、そこで働いていたが、同居の父親が 5 年くらい前に亡くなり、独居となる。働いていた事業所から、「無断欠勤をするようになった。帰り道がわからない様子がある。」という連絡を受けて、市内に住む妹が家に行くと、自宅内はゴミだらけ、本人も意思が通じない状態であり、市役所に相談があった。認知症専門医の診断を受け、介護保険を申請し、まずはホームヘルパー、デイサービスを利用することとし、本人の身体状況の安定を図り、能力の見極めを行った。その後、障害者授産施設のお試しを経て、現在は毎日授産施設に通い、ホームヘルパーを週 2 回利用している。生活状況は安定し、本人も授産施設への通所が生きがいになっている。もともと知的障害があり、親亡き後、支援が途切れ、生活が立ち行かなくなり、認知症状がみられるようになったケースと考えている。

●　介護保険申請にあたり、在宅支援担当者が相談（来所での相談 1 回）に応じた。入院中の対象者の介護保険調査にも同行しているため、その在宅支援担

当から地域担当保健師へ情報提供および引継ぎがされた。対象者が入院中にその家族と電話連絡し（6〜7 回)、地域活動支援センター（1 ヶ所)、就労支援Ｂ型事業所（3 ヶ所）を本人（外泊して）と家族で見学に行った。退院後の方針が本人と家族の間で決められ、退院となった。

● 認知症疾患医療センターから連携の依頼があり、相談を開始した。相談内容は、経済不安および就労希望である。制度の申請を支援し、担当課や事業所へのつなぎを行った。支援の内容は障害福祉関連事業所に対する支援、本人との関わり方、進行予防、専門医療機関との連携、家族会への参加などであり、相談回数は計 47 回であった。就労継続支援Ｂ型事業所を利用し、さらに相談支援事業所も利用した。障害年金、精神障害者保健福祉手帳、自立支援医療の申請を支援した。夫がうつ病の疑いがあるため、専門医療機関を紹介した。現在は、就労継続支援Ｂ型事業所の他の利用者（精神疾患の人）とトラブルがあり、一旦利用をキャンセルするとのことであったが、調整した結果、利用が継続できることとなった。

● 認知症疾患医療センターから連携の依頼があり、相談を開始した。相談内容は、専門医療機関、進行予防、経済不安、就労の希望、制度申請の支援であった。障害福祉関連事業所に対する支援、本人との関わり方、夫婦・親子関係、家族会への参加などについて対応し、相談回数は、計 38 回であった。精神科病院を受診し、障害年金を受給し、精神障害者保健福祉手帳を取得した。自立支援医療は非該当であった。就労継続支援Ｂ型事業所を利用、さらに相談支援事業所も利用している。若年期認知症の人と家族の会に参加している。家族内問題が山積のため、均衡が崩れると妻の不安があり、訴えが増える。

● 専門医療機関の選定、経済的不安、認知症に対する不安を抱え、市の長寿社会課に相談にきた。相談内容は、専門医療機関、本人への関わり方、心の持ちようであり、本人、妻、子ども各々に対応した。また、親子関係、就労の継続（主治医と連携)、進行予防、制度申請の支援を行った。障害福祉関連事業所に対する支援、家族同士のつなぎなどで対応し、相談回数は計 48 回であった。精神科病院を受診し、主治医と連携、自立支援医療の利用、精神障害者保健福祉手帳の取得を支援した。休職し、傷病手当金を受給しながら、就労継続支援Ｂ型事業所を利用し、また相談支援事業所も利用した。家族同士の連携により、若年期認知症の人と家族の会の発足に発展した。本人は就労の継続が困難になり、自分なりの理由（子どものため）や妻の思い（働かせてやりたい）で就労継続支援Ｂ型事業所を利用した。次第に事業所を自分の居場所として、毎日を

楽しむようになった。当初の目的は薄れ（忘れ去られ）、日々の楽しみ、幸福感の追求がメインになったようだ。障害年金の申請直前に死亡した。

● 認知症疾患医療センターから連携の依頼があり、相談開始した。相談内容は、経済不安、住宅ローン、休職中の過ごし方（傷病手当金、就労継続支援Ｂ型事業所）などであった。制度の申請支援、担当課や事業所へのつなぎを行った。障害福祉関連事業所に対する支援、本人との関わり方、親子関係、進行予防、家族同士のつなぎ、専門医療機関との連携などで対応し、相談回数は計 61 回であった。傷病手当金の申請を支援し、職場の理解を得て、Ｂ型事業所の利用が可能となった。精神科病院を受診し、主治医と連携、自立支援医療を利用したが、住宅ローンの高度障害については、状態が軽度と診断されて該当せずであった。家族同士の連携により、若年期認知症の人と家族の会の発足に発展したが、妻の就労環境が厳しく参加できなかった。現在、住宅ローンの高度障害を再申請し、障害年金は申請準備中である。本人は家計やローンを妻に背負わせることへの罪悪感から、できることなら何でもしたい、少額でも賃金があるならと就労継続支援Ｂ型事業所の利用を希望している。しかし、病気の進行とともに賃金や家計などに対する思いは薄れ、Ｂ型事業所に居場所を見出している。事業所では、冗談を言ったり、役割を担うなど社会性を発揮し、活発な反面、自宅では無言をつらぬくため、妻が本人との関わりに悩むなど、自宅と事業所での様子に乖離が見られる。

②　若年性認知症就労支援実践事例

次に、大府センターが支援したり、関わりがあった事例、あるいは認知症疾患医療センターのケースワーカーが係わった事例を紹介する。

1）本人と会社の意向にズレがある事例（A 氏）

55 歳男性：脳血管性+アルツハイマー型合併、家族構成は妻と子ども 2 人，大手企業勤務

経緯

●X 年 1 月より業務の遅延，ミスの顕在化により，上司が健康管理センターに相談をした.

●健康管理センターにて産業医と本人の面談を設定し話を聞いたところ，認知症専門医療機関受診中であり，精査入院の予定があるということが判明した.

●検査結果を産業医が主治医に確認したところ，診断名は「脳血管性+アルツハイマー型合併」とのことであった.

●翌年 7 月には，本人の状態にあわせ仕事は単純作業とし，業務上の車の運転不可の状態となった.

●その後も業務遂行能力は徐々に低下し，2 年後の 3 月ころより失禁も出現し，職場としても対応に苦慮するようになる.

●上司は，産業医から本人への休養の働きかけを再三求めるが，産業医は「専門医療機関から就労不可との判断が無い」と，会社の判断に委ねる意向を示す.

●保健師が本人と面談の結果，本人は回復すると考えており，金銭面からも就労を希望していた.

この事例から考えられること

本人は金銭面から就労希望しているが，仕事中に失禁する状態であり，この状態で働きつづけることは本人も辛いという可能性は高い．ある若年性認知症の男性が仕事でミスが目立ち始めたころのことを振り返り「辛かった．仕事を辞めたことでほっとした部分もあった」と述べていた．本人が実のところどのような気持ちでいたかは，上司も健康管理センターの保健師も確認はしていない．大企業ということもあり，この男性を抱えるだけでの経済的な余裕が会社にあったためである．

金銭面の不安を本人が述べていたのであれば，各種制度を利用しても経済的に厳しいのかどうかという検討がなされる必要があるだろう．ただし，若年性認知症にどのような制度が適用できるのかということが担当部署で把握できている必要がある．

家族の立場からは，経済的不安ももちろんあるが，会社を辞めると行き場がなくなるのではないかという不安もあり，仕事の継続を希望するということもあるだろう．しかし，本人は辛い思いを抱えたまま働いていることも考えられ，本人の意向も含め，就労の継続については検討される必要がある．

大企業のように経済的に余力のある企業は，若年性認知症の社員を何らかの形で抱えている可能性は高い．また，若年性認知症への対応は各企業で異なっていることが推察される．企業内でのケースを集約し，就労継続のポイントや，各種制度の利用をしながらの退職への準備のプロセスなどの検討を行うことができれば，モデルケースを提示し，企業内での若年性認知症への対応にいかすことができる．しかし，事態が把握できていないのが現状である．

2）統合失調症と診断され授産施設につながった事例（B 氏）

40 歳男性：妻と子どもがいたが，若年性認知症と診断の後離婚し，現在は両親と同居．障害者授産施設月曜日から金曜日まで通っている．

経緯

●X 年に他県から両親在住の Y 県へ転勤となる．新任地での仕事に追われ深夜勤務が続く状態で，B 氏の妻は過労死を心配し男性の両親に「本人に転職を勧めて欲しい」と依頼するほどであった．

●しばらくすると，仕事のミスが頻発するので病院を受診するようにと会社から連絡が入り，受診の結果うつ病と診断されたが，B 氏は服薬せず仕事を継続した．

●B 氏の状態に変化がないため，カウンセリングを受けられる病院に転院すると，そこでは統合失調症と診断された．

●仕事の継続は困難となり退職し，統合失調症という診断のもと，平日は障害者授産施設に通うようになった．

●授産施設で意欲的に作業に取り組む B 氏の姿を見て，両親は統合失調症という診断を疑い，無理矢理に人間ドックと脳ドックを受けさせた．脳外科の医師は「異常なし」という判断であった．物忘れがあることが気になっていた両親がその旨を医師に伝えると，「MRI の画像を渡すので専門病院を受診するように」と言われた．

●1 年後，大学病院の脳神経外科に検査入院し，前頭側頭型認知症の疑いと診断された．大学病院での検査結果を踏まえ，妻とは離婚となり，子どもは妻に引き取られた．

●診断名は統合失調症ではなくなったが，その後も授産施設には継続して通っている．

●5 年後，授産施設での作業もできないことが多くなってきている．トイレットペーパーを必要以上に使用して詰まらせるといった問題も時折起こすように

なり，両親は後どれぐらい授産施設に通うことができるかを心配している．

この事例から考えられること

認知症は精神疾患であり，精神障害者授産施設に通所は可能であるが，認知症と診断されて精神障害者授産施設に通所となるケースはごくまれである．B氏の場合，統合失調症と診断されたことで，精神障害者授産施設に通所することになり，若年性認知症と診断された後も，施設側が受け入れたことで通所が継続可能となった．

精神障害者授産施設は，認知症患者を受け入れた経験がないため，認知症という診断名で通所を希望した場合，受け入れてもらえたかどうかわからない．B氏の場合，前頭側頭型認知症であり，記憶力はある程度保持されていることもあり，数年間は継続して通所できている．認知症患者を実際に受け入れてみれば，授産施設への通所がある程度可能であることが，授産施設側も理解することができる．しかし，この点はまだ授産施設には十分に情報が行きわたっていない．この後，どれくらい通所可能かどうかは不明であるが，男性の両親は，当時まだ30代であった男性の退職後の行き場があったことが何よりの救いであったと述べている．

3）福祉的就労につながった例（1）C 氏

55 歳男性、アルツハイマー病、家族構成は妻と子ども 3 人，会社員（ガス工事）

経緯

●55 歳頃から、物忘れが見られるようになり、工事現場から会社に戻れないことがあって仕事に支障が出るようになったため、本人の希望で退職した。

●自宅で過ごしていたが、就労意欲が強く、ハローワークに通って再就職するも継続できなかった。

●通院する病院のソーシャルワーカーを通じて、精神障害者授産施設を紹介され、体験利用を経て利用を開始した。体調によって、利用は週 3~4 回、内容はリネンの回収・納品、選択の多、木の選定や草取りなどの屋外作業。

●当初、自家用車で妻が送迎していたが、時に自転車で通所。1 年を過ぎるころから、屋外作業が負担となり、軽減。また、体調不良のため、欠勤や、作業中の休憩が多くなる。

●2 年後には、あらゆることに時間がかかる、手順がわからなくなるという状態となった。

●3 年目、要介護認定（要介護 1）を受けるころから、意欲の低下がみられた。欠勤が増え、1 か月に 1~2 度の通所となる。その後、症状進行のため、作業が本人の大きなストレスになっている様子で、自宅でも寝ていることが多くなり、デイサービスを開始した。

●満 4 年目になる少し前に、授産施設の利用を終了し、若年性認知症のデイサービスを利用開始した。

この事例から考えられること

本人の能力が保たれている時期に支援へのアプローチができた。家族の理解があり、本人のペースに合わせた支援が得られた。本人が現状を受け入れることができていたと考えられる。医療機関内の多職種、授産施設の職員の間で、情報や認識が共有できたことが、就労につながった。

４）福祉的就労につながった例（２）D 氏

53 歳男性、アルツハイマー病、妻とともに自営業（理容店）

●52 歳頃、なじみの客の顔を忘れるなどの物忘れの症状があり、医療機関を受診し、うつ病と診断されたが症状が改善しないため、別の医療機関を受診し、認知症と診断された。

●自営業を廃業し、自宅で家事をしたり、ウォーキングをしたりして過ごす。本人はもともと、仕事が好きな性格であり、就労意欲が高かった。病院のソーシャルワーカーを通じて、精神障害者授産施設を紹介され、施設見学に訪れた。

●本人も家族も施設の利用に前向きであり、約 1 か月の体験利用を経て、正式の利用となった。利用は週 2 回、内容はタオルたたみが主であり、おしぼりたたみは、工程が複雑なため困難であった。

●始めの頃はたたみ方が覚えられず、頻繁に確認したり、質問したりして、他の利用者の負担となった。作業室への誘導や昼食の管理、トイレへの誘導など支援を要することが多かった。

●利用開始 6 カ月後、近くの精神科病院の精神科デイケアを週 2 回利用するようになる。

●1 年後、認知症の進行によって、症状が増悪し、廊下を往来する、大量のトイレットペーパーでトイレを詰まらすなどの症状がみられ、作業が困難になる。また、家庭や授産所から徘徊するようになり、何回も警察に保護される。要介護認定を行い、介護サービス利用に移行することになり、授産施設の利用は終了した。

この事例から考えられること

家族が本人の現状を受け止め、必要な対応と、相談を積極的に行ったことがよかった。妻以外の家族の協力も得られ、スムースに就労につながった。経済的な問題があり、サービスの利用が十分にはできなかった。病状の進行が早く、必要な体制整備が追いつかなかった。

5）福祉的就労につながった例（3）E 氏

６０歳　男性、アルツハイマー病、会社役員

●６０歳まで大企業の管理職として勤務し、退職後は関連会社に出向した。５９歳ころ、駅から会社に戻れない、部下に指示したことを忘れ、同じことを何回も言うなどと指摘されて医療機関を受診した結果、アルツハイマー病と診断された。

●会社の勤務が困難となって退職したが、何とか記憶の低下を遅らせたいと考え、自主的に脳トレをした。医療機関で作業療法を行う中で、ソーシャルワーカーを通じて、精神障害者授産施設を紹介された。しかし、当初は、就労意欲が高く、一般の就職を目指していたが、就職先は見つからなかった。再度、授産施設の利用を勧められ、体験利用を経て利用開始となった。

●当初は週３回の利用であったが、徐々に増加し、現在は週５回利用している。内容はリネンの回収・納品、洗濯（機械からの洗濯物の出し入れ）、タオルたたみなど。外出して行う作業を好むが、作業には説明や誘導が必要で、本人はメモをして、作業内容を記録している。休憩中は、作業所に併設されている地域活動支援センターで、卓球や電子ピアノ演奏で楽しんでいる。

●１年後、ドライブレコーダーの設置や、運転状況の検証の結果、家族・主治医からの説得で自動車の運転を中止した。記憶障害が進行し、メンバーの名前を確認することが増える。

●１年半後、利用日が週５日となる。作業内容やスケジュール、役割分担などに対し、不安を訴えることが増加し、個別対応を要することが多くなった。

●２年後には、物忘れが増え、声を荒げる場面や、我をとおすことが増えてきた。

●３年後、利用は継続しているが、物の置き忘れが増え、メモを取ることはなくなった。

●３年半後、作業や日常場面での物忘れが増加し、妻に電話をして確認する。作業の細かい説明や、誘導・同行支援の必要が多くなる。

●この間もしばしば、家族や、仲間と国内外の旅行をしている。

この事例から考えられること

さまざまな提案を本人が柔軟に受け止めることができた。もともとの能力が高く、認知機能低下があっても著しい生活障害は見られない。妻の理解があり、本人に沿った支援が可能であった。経済的に余裕があった。

6）福祉的就労につながった例（4）F 氏

６２歳　男性、アルツハイマー病、会社員（車の運転、配送係）

●５７歳頃から物忘れがみられるようになり、近医を受診してアルツハイマー病と診断されたが、会社からは就業継続を認められた。通勤は同僚の同行で対応していた。同僚の都合がつかなくなり、会社からは勤務継続を勧められたが、６０歳で退職した。

●自宅で過ごしていたが、６１歳時、ケアマネジャーの紹介で、デイサービスの利用を開始した。家族会に参加し、その紹介で精神障害者授産施設を知り、体験利用を経て、利用を開始した。当初、本人は利用に消極的であったが、家族は介護負担を軽減するため、積極的であった。

●週２回利用し、内容はタオルたたみ、アスパ（生成、干し、納品）である。

●施設利用中の不安が強く、「自宅に帰れるか」、「妻が迎えに来るか」等と、頻回に質問する。タオルのたたみ方や数の確認が必要で、ロッカー、靴入れ、食堂の場所を忘れ、言葉だけではわからないので同行する。持ち物は事務所で管理し、連絡事項は直接、妻に行った。

●４ヶ月後、作業中の集中力低下がみられ、「疲れた」と頻回に訴える。

●６カ月後、昼食時の服薬管理が困難となる。

●８ヶ月後、作業を継続することは困難となったので、今後のことにつき、ケアマネジャーを交えて話し合う。作業が本人にとっても意欲減退や疲労の原因

となっているので、介護サービスに移行することとなり、利用開始１年で終了となる。

精神障害者授産施設利用者４例の支援のポイント

1．家族との情報共有と情報の交換
　⇒　現状報告によって事実を正確につたえる。

2．通院する医療機関のソーシャルワーカーとの情報共有と情報交換
　⇒　現状報告し、ともに今後の支援について検討する。

３．本人の能力に合わせた個別支援
　⇒　努力でできることと、できないことを区別する。

4．本人の疾患の進行の合わせた作業内容の見直し
　⇒　作業能力に合わせて、作業内容を見直す

5．施設利用終了の見極めと、それを見越した支援の計画
　⇒　　施設利用の終了時に、次のサービスにつながるよう、介護や医療機関の専門職との情報交換

一方で、就労支援につながらなかった例も見られる。

＜休職扱いになった事例＞

7）５５歳　男性　５４歳発症　アルツハイマー病　公立学校教師

●アルツハイマー病と診断された後も職場の理解があり、学校に行って生徒と触れ合うことができ、社会的立場が継続できた。

●しかし、職場での本人の役割が十分に検討されなかったことや、本人が社会的役割の維持を希望し、職場以外での社会参加の場を提案できなかったことが課題であった。

●妻も働いており、本人のために十分な支援を行える体制ではなかった。

8）５１歳　男性　４５歳発症　アルツハイマー病　会社員

●休職中であるが、社会的身分と経済面が保障されていた。既に介護サービスを利用しており、妻に知識があったため、スムースに利用につながった。就労に関しては、相談がなかった。

9）４６歳　男性　４２歳発症　アルツハイマー病　会社員（大型書店）

●休職中で社会的身分と経済的な保証があり、社会生活能力が大きく障害されていない。医療機関内で主治医、リハビリ担当医と情報交換しながら連携して支援ができている。

●本人が現状を受け入れておらず、今後の方向性について現実的に検討できない。積極的に支援する女性がいるが、別居中の妻もおり、オープンな支援が期待できない。

●母が自営業で時間がなく、十分なコミュニケーションが取れない。遺伝的要因が強く、本人や家族のストレスになっている。

●休職中であり期間も長くなっているため、今後の方向性、生活の再設計について検討中であるが、社会参加はない。

また、就労を妨げる要因がみられた事例もある。

10）５９歳男性、５７歳発症、アルツハイマー病　自営（獣医）

●発症してしばらくして、妻の意見で廃業した。妻が自分なりに今後の生活の再設計について考え、それに対する助言をする程度となった。社会参加や日常生活の過ごし方、家族会への参加等をソーシャルワーカーから助言したが、賛同が得られなかった。

●経済的に大きな問題がなく、生活が成り立っていた。

●妻は自分の考え以外の提案を受け入れることができず、本人の能力が保たれているにもかかわらず、社会参加に至らなかった。常に妻が主導権を以って接したので、本人に対する積極的な接触ができなかった。

11）５８歳女性、52歳発症　アルツハイマー病　パート（ホームセンター）

●社会参加について、本人は働きたいと口にはするが積極的な行為はなく、また夫は働いており、経済的には問題がないので、妻の再就職を望まなかった。

●認知機能障害が軽度であるため、夫は現状に関して問題ないととらえている。本人と姑との関係や、能力低下に不安を持っていることについても関心がはらわれず、夫に訴えることができない

12）５８歳　男性　５７歳発症　前頭側頭型認知症　部品製造業

●妻の強い希望により、障害者雇用制度を検討し、障害者就労相談センターに支援依頼を行った。その直後に大腿骨頚部骨折をし、就労能力なしと判断されたため、介護保険の申請し、デイサービス利用を支援した。

●傷病手当金の受給により、経済的に大きな問題がなかった。本人がサービス利用を拒否せず、妻は本人の生活支援をすることができたが、現実的な問題解決は十分にはできなかった。

以上のように就労支援に結び付けるには、早期受診・早期診断により、早い段階で認知症であることがわかること、本人の能力や就労意欲が高いこと、家

族、特に介護主体となる配偶者の理解や協力が得られること、職場の産業医や同僚、病院のケースワーカーや能力判定をする職種、障害者施設の職員や利用者など、若年性認知症を取り巻く多くの人の理解と協力が得られること、さまざまな情報が速やかに本人や家族に伝えられることなどが必要である。

今回の結果は、働き盛りで職業を失い、経済的に困窮し、社会的に孤立しがちな若年性認知症の人の就労支援における課題を浮き彫りにするものである。

平成 23 年度老人保健健康増進等事業による研究報告書

平 成 23 年 度　認 知 症 介 護 研 究 報 告 書

<若年性認知症に対する効果的な支援に関する研究事業>

発　行：平成 24 年 3 月

編　集：社会福祉法人　仁至会

認知症介護研究・研修大府センター

〒474－0031　愛知県大府市半月町三丁目 294 番地

TEL(0562)44－5551　　FAX(0562)44－5831

発行所：若葉印刷有限会社

〒462－0852　愛知県名古屋市北区猿投町 26 番地

TEL(052)991－5537　　FAX(052)914－7933